

平成25年第7回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成25年12月9日(月曜日)

議事日程第3号

平成25年12月9日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 20名

出席議員 20名

1番	笠原幸江君	2番	斉木勇君
3番	渡辺重雄君	4番	吉川慶一君
5番	樋口英一君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	伊藤文博君	10番	中村実君
11番	大滝豊君	12番	高澤公君
13番	田原実君	14番	伊井澤一郎君
15番	吉岡静夫君	16番	新保峰孝君
17番	倉又稔君	18番	松尾徹郎君
19番	五十嵐健一郎君	20番	古畑浩一君

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市長 米田 徹君 副市長 織田 義夫君

総務部長	金子裕彦君	市民部長	吉岡正史君
産業部長	加藤政栄君	総務課長	田原秀夫君
企画財政課長	斉藤隆一君	能生事務所長	久保田幸利君
青海事務所長	山岸寿代君	市民課長	竹之内豊君
環境生活課長	渡辺勇君	福祉事務所長	加藤美也子君
健康増進課長	岩崎良之君	交流観光課長	藤田年明君
商工農林水産課長	斉藤孝君	建設課長	串橋秀樹君
都市整備課長	金子晴彦君	会計管理者 会計課長兼務	横田靖彦君
ガス水道局長	小林忠君	消防長	小林強君
教育長	竹田正光君	教育次長 教育委員会こども課長兼務	伊奈晃君
教育委員会こども教育課長	池田修君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務 勤労青少年ホーム館長兼務	原郁夫君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務	佐々木繁雄君	監査委員事務局長	池田正吾君

事務局出席職員

+	局長	小林武夫君	次長	猪又功君	+
	主査	室橋淳次君			

午前10時00分 開議

議長（樋口英一君）

おはようございます。
 これより本日の会議を開きます。
 欠席通告議員はありません。
 定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（樋口英一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
 会議録署名議員には、8番、古川昇議員、17番、倉又稔議員を指名いたします。

日程第2 . 一 般 質 問

議長（樋口英一君）

日程第2、一般質問を行います。

6日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。〔3番 渡辺重雄君登壇〕

3番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

今回は、市民及び住民自治組織、市内各種団体と行政の関わり方についてであります。

米田市長は3期目のマニフェストの中で、行政は「地域課題に対する積極的な向上心が不足」「住民との相互協力による協働の取り組みが不足」、住民も「地域の主権者としての自立心の不足」「糸魚川に暮らす人々がお互いを尊重し協力し合う協働体制が不足」としております。

この課題に対処するための政策として、市職員の意識改革の推進と住民の地域づくりに積極的に参加する体制を整備するとして、職員の提案研修制度の拡充や協働組織「チーム糸魚川」を発足するとしております。

なぜ、行政、市民に地域発展のための意識や基本的な取り組みが不足しているのか、その仕組みはどのようになっているのか、どこに問題があるのか。

この政策に期待する観点から、原点である現在の市民及び住民自治組織、市内各種団体と行政の関わり方について何点かの項目でお伺いをいたします。

(1) 市民の要望・期待の把握と対応についてであります。

行政は多様化する市民の要望・期待を的確に把握し、市民との信頼関係を維持・強化し、そして、市民がどの程度満足したかを把握する必要がありますが、どのような仕組みで対応されているか伺います。

(2) 住民自治組織、市内各種団体と行政の関わり方についてであります。

行政は住民自治組織、市内各種団体と、人的、物的、財政的、情報など幅広い関わりの中で対応されているが、その実態はいかがか。また、縦割り行政など行政の仕組みからくる、住民自治組織、市内各種団体に与える影響や問題点についてもお伺いをいたします。

(3) 広報、広聴の現状と課題についてであります。

職員一人ひとりが、市政を推進するための広報広聴の担い手という自覚を持って、質の高い広報活動を行うとともに、市民の声を丁寧かつ真摯に受けとめる広聴活動にも期待しており、その現状と課題について伺います。

(4) 地域づくりプランについてであります。

平成23年度に策定した「地域づくりビジョン」のあと、今後の地域づくりや自治活動等の具体的な取り組みを定めた「地域づくりプラン」の策定を各地区に呼びかけ、地区の総意で策定してほしいとしているが、その現状と課題を伺います。

(5) 地域担当職員、みまもり隊の活動についてであります。

市民と行政が情報を共有し、相互の理解と連携を深める取り組みとして、「地域担当職員制度」が導入され、さらに中山間地域の高齢化が進む集落の機能や活力を維持し、集落の活性化を支援するために「中山間地域集落みまもり隊」が導入されていますが、この両制度の効果と今後の見通しについて伺います。

(6) 市民との協働についてであります。

協働を推進する目的は、市民だけでも、行政だけでも実現できないよりよいまちづくりを実現することと考えており、その基本的な考え方と位置づけ、推進方法について何うとともに、「チーム糸魚川」の具体的な戦略についても伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、総合計画策定の際、市民アンケートを実施いたしており、糸魚川が住みやすいと思う市民が、男女別、地域別ともに増加いたしていることなど、満足度を把握しながら施策検討に生かしております。

2点目につきましては、住民自治組織や市民団体に対して財政的支援に加え、情報提供や相談窓口などの活動支援を行っており、庁内の連携を密にし、幅広い対応ができるよう配慮いたしております。

3点につきましては、広報広聴活動のほか、職員が市民の方々と接する機会を広報広聴の場と捉え、きめ細やかな情報共有を図るよう、職員の意識改革を進めております。

4点目につきましては、地域づくりプランを策定した地区が1地区、策定中が5地区であります。今後の課題といたしましては、公民館体制が大きく変更となります青海地域では、地区の代表者の方と十分に協議をしながら、進めてまいりたいと考えております。

5点目の地域担当者制につきましては、地域と行政のパイプ役として評価をいただいております、一定の効果があったものと考えております。

また、集落みまもり隊につきましては、これまで集落の巡回や各戸訪問、集落行事等への参加を通じて、住民との関係づくりの足がかりができたものと考えております。今後とも地域担当者と地域のみまもり隊が連携し、支援してまいります。

6点目につきましては、行政だけでなく市民やNPO、企業等が、それぞれの役割と責任を理解し合い、協力し合ってまちづくりを進めることが重要であります。

また、チーム糸魚川では、当面、糸魚川市全体のチームワークを高める活動と、糸魚川を知り、

糸魚川に愛着を持つ活動を行ってまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは、1点目の市民の要望・期待の把握と対応についての2回目の質問をさせていただきます。

どこの行政でも非常に厳しい財政難の中で、求められる公共サービスは急増しておるわけで、非常に矛盾を抱える中で、市民パワーを最大限に活用しようとする動きは活発になってきてるわけですが、そのためには市民と行政の関係ですけれども、まず、糸魚川市の場合、市民と行政の距離に関して、どのように感じておられるか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

市民と行政の距離でございますけれども、私ども行政としては市民の皆さんの意見を聞きながら、また、私どもの市の施策の方針、施策の取り組み等を行政懇談会、あるいは地区訪問懇談会、広報紙、いろいろな場面を通じましてお知らせし、それぞれ距離を縮めて、行政・住民一体となって、地域づくりを進めていきたいという考えで、取り組みを進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

住民との適切な関係というふうなことになりますと、これからは住民の目線、それから住民との協働ということが大切ということになるわけですが、この点に関しては、どのように考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

市民目線でという言葉もあるわけですが、行政を執行していく中では、やはり目線を合わせるという部分においては、行政施策どの分野におきましても対市民という部分では、同じ目線というふう意識をしながら、努めてきているつもりであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

住民との協働、これは後でまたお聞きしたいと思います。

先週のニュースで、日本航空と全日空が、利用者のおもてなしに力を入れてるということが紹介をされておりました。最近、航空会社が力を入れているのは機内でなく、空港の接客というふうなことなんですけど、日本航空はこの中で、イエスの発想ということで、受け入れられない要求も利用者に寄り添う対応が必要で、エアラインの生き残りの鍵だというふうなことをおっしゃっていたわけですね。

糸魚川市において、市民に対して開口一番、予算がないという対応、今はこういう状況というのはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

財政が厳しいからということで、基本的に施策を実行できないケースも現実にはあるというふうに思いますけれども、行政の立場とすれば、厳しい財政状況も皆様にわかりやすく説明をすることとあわせて、できるもの、できないものということのやっぱり説明責任が、行政にあるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今、課長がおっしゃるとおりだと思うんですね。市民からの要望に対して、予算がないという対応ですけども、これも実際、事実そのとおりあると思うんですね。ただ、その場合、要望に応えられない事情をどう伝えるかというふうなことで、必要なのは住民に対する説明能力といいますか、これが大事になってくるわけですが、とかく今までは行政内部だけに通用するような説明、これが住民にもされていた傾向というのは、あったかというふうに考えるわけでございまして、組織の論理に振り回されると、どうしてもそれが前面に出てくるというふうなことでございまして、住民と対話してバランスのとれた市民感覚、これをやっぱり身につけていただきたいと思うんですが、その辺の教育と申しましょうか、職場内の申し合わせというのは、できておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

これまで地区訪問懇談会ということで、例えば市長の出席する地区懇談もあるわけですけども、そういった折には市の財政状況というものを、できるだけわかりやすく冒頭で説明をさせていただくという部分では、これまで22年度から具体的には行ってきておりますけれども、決して全ての

住民の皆さんが、そこにおいでいただいたということではないというふうに思っています。多いとしても600人くらいの方から、箇所数も30から40カ所くらいありますけれども、ただ、その数が市民全体から見れば、ごく一部であります。

もちろん、地区訪問懇談会で全て完結するとは考えておりませんが、いろんな場面で広報等も含めて、ホームページも含めて、もう少しわかりやすい、やはり広報に努めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ぜひ、そういう対応をしていただきたいというふうに思っております。

先ほど1回目の市長答弁で、市民アンケート調査で満足度が年々上がってきているというふうなことで、非常に喜ばしいことなのですが、最新の調査では、実際、行政サービスの満足度も含めて、どのような調査結果が出ているのか、お伺いをしたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

市民の満足度という測定というのは、非常に難しい捉え方になるというふうに思っていますけれども、当市がこれまで行ってきた分析としましては、市民アンケートを施策ごとに、市民の各施策に対する思いを、5段階評価をいただいて捉えている数字があります。これは総合計画を策定する段階でありますので、最新では22年度、その前ですと合併して初めての総合計画を17年度から策定に入っておりますので、17年と22年の数字であります。

施策的には6つの総合計画の分野がありますけれども、その中を押しなべてみますと、74項目にわたって市民の満足度を聞いております。その中で、やはり満足度を高く評価されたのは、全体の4分の1程度が満足度の高い施策、あと逆に4分の3は、市民の思いからすると重要な施策なんだけれども、満足度がついていかないという声も聞いておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

先月、行政改革の先進地であります茨城県の牛久市で、政務調査をさせていただいたわけですが、そこでは毎年、この市民満足度の調査を実施しております。中身は今、課長がおっしゃったような中身でありまして、住み心地、行政サービスの水準、重要政策に関して、それから市民の健康状況、広報紙や発行物に関することなんかもあったわけですが、かなり突っ込んだ項目もありました。

やはり糸魚川市も毎年実施して、市民の意向を確認することが大切ではないかなというふうに感じてきたわけです。特に、市民との距離の確認という点からも重要だと考えておるわけですが、毎年の実施というのは難しいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

市民アンケートを毎年実施したらどうかという、ご提案だというふうに思っております。

ちょうど今、市の総合計画が28年度で期間が満了いたしますので、27年度にはというふうに考えておったところであります。総合計画の策定段階では、やはり市民の満足度をいかに捉えて、不足している、重要だけれども、非常におくれているという施策については力を入れていくという、1つのやっぱり判断する材料にもなるというふうに思っておりますので、総合計画の折には、まず間違いなく実施していかなければならないと思っております。

毎年という部分については、今の段階では、少しまだここで答えできる段階にありませんので、また再来年の部分も含めまして、庁内の関係する部分で、広聴という部分も含めまして、検討させてもらいたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ちなみに今、牛久市の例を申し上げたわけですが、こちらのほうでは毎年、このデータを確認しながら、自信を持って行革や住民との協働を進める。やっぱりこれも1つのバロメーターにしているんですね。

ちなみに、住み心地の満足度が88.1%、それから納めている税金に見合うサービス水準に関する調査というのがありまして、こちらが63.6%の支持を得てるということで、全体的に市民の支持がかなり高いものがあったわけですが、ぜひ参考にさせていただきたいというふうに思います。

次に、2点目の住民自治組織、市内各種団体と行政のかかわりについてでございますが、まず、お聞きいたしますけれども、市内における自治組織、地域によって自治会、あるいは町内会、何々区というようなことで、名称がちょっといろいろあるみたいなんです、その名称の実情というのは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、糸魚川市の行政区の呼び方でありまして、一般的には区という形で、大方の部分が存在しておりまして、これが現在、数でいいますと184の区があると。自治会、あるいはまた町内会というような呼び方もされるところもありますけれども、我々のほうは区という形で、行政区を捉えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

住民自治組織、区ですね、住民自治の基礎的な部分で、大きな役割を果たしてるわけですけども、改めて市との関係といえば、どのような関係にあるんでしょうか。お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

行政区、区といいますのは、いわゆる住民自治の最小単位のものというふうに捉えております。ここと行政、住民自治と行政の立場でありますけれども、当然、行政区を統括する範囲が糸魚川市の範囲になるわけでありますので、行政区と行政という部分については、もうある意味で表裏一体の関係である、立ち位置であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

総合計画の後期基本計画の中では、自治組織の活動内容や意識が地域によって違うため、地域の実情に応じた自治組織への支援のあり方を検討する必要があるということですね。24年度以降、具体的に検討され、支援として取り組まれている内容があったら、お聞かせいただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

各自治会の状況というのは、恐らく厳密に言えば、全て活動内容が異なっているというふうに思っております。一方で、そのことは当然であろうというのも理解をしておるところであります。

そうしたときに自治会と行政の関係の中で、行政が住民自治を支援する制度という部分は、いろんなところであるわけでありますけども、その1つとすれば、やはり地域づくりプランという部分も、その支援制度も1つである。細かな各いろんな施策がありますけれども、施策に対する自治会との連携という意味で、自治会が必要としている支援制度を行政として立ち上げるという部分についても、ここ数年で相当数の今、支援制度が立ち上がっているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

おっしゃるとおり自治組織に対する支援については、かなり力が入ってるということを認識しております。

そこで、各地域の自治組織の活動なんですけども、まず、どのような活動がされてるか、把握ですね。数年前に地域担当職員が配置されておるわけですが、それぞれの地域では、いろんな情報が

入ってきてるかと思うんですが、少なくとも年に1回、地域では総会が行われておるわけですが、それらの資料というのは皆さんのところで、一応いただいておりますか。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

各最小の単位での自治会は、先ほど184あるというふうに申し上げました。それらの行政区を束ねる1つの組織として、これも地域によっては呼び方が違っておりますけども、自治振興協議会というような言い方をしたり、総代会というような言い方もありますけれど、そういったところの資料につきましては、総会そのものに出席するところもありますし、資料としていただくということもあります。末端単位では今、184の行政区の総会の資料というのは、いただいていないというのが今の実情であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

いろいろ難しい、あくまでも自主的な組織になっているわけですので、やむを得ない面もあるんですが、中身を見ますと、組織的に困っている事柄を抱えている区もあるわけですね。そういう把握等もしていただきたいと思えますし、まずは困っている事柄だけじゃなくて実態調査、これをやったりしていただいたほうがいいんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

渡辺議員の今おっしゃられているところは、恐らく世帯数の少ない行政区というところのお話が、主になるのではないかなと思っています。

今、これらの区については、地区担当は、もちろん22年度からの配置でありますけれども、渡辺議員の言われたみまもり隊につきましても、今年度、まだ半年の活動期間でありますけれども、活動してきております。つぶさに、そういった自治会ごとの状況についても集落の巡回、巡回の中で、もちろん地区の会議にも、みまもり隊も出席をしております。状況も、私も報告を受けておるところであります。これらの状況を見ながら、対応していく必要があるとは思っておりますので、実態調査と言わないまでも、今、特に中山間地の置かれているそういった数の少ない、世帯数の少ない区の状況については、それなりに把握はできているというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今、課長のほうから、さきにお話がありました。この中山間地域ですね、いわゆる自治組織の存

続、維持活動、これもなかなかいろんな面で厳しくなってきたというふうなことです。

例えば1世帯当たりの区費と申しますが、自治会の負担、これもかなりの額にのぼってきてるといふことで、いろいろなお話をお聞きしてるわけです。その点で支援的なもので、1例ですが、草刈りとか除雪などの作業を支援する集落サポーター、こういう制度もつくっていただいとるわけですが、現在、この事業と申しますが、制度はどんな状況になっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

集落サポーター事業については、平成23年度から取り組みを始めております。これまでの実績からいきますと、一番多いのは、やはり冬期間の除雪、公の施設といひましようか、地区の集会所であったり、そういった屋根雪除雪という部分が毎年ありますけれど、そのほかにありますのは、やはり集落の主要な用水等の管理の中で、地区の皆さんと共同作業の中で行うという部分も、これまでの実績の中ではあります。

あと草刈り等も、我々のほうでは予定をしておったところでありますけども、草刈り等のサポーターへの要望は、今のところない状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それと行政とのかかわりの中で、自治会活動では緊急時の対応、それから自主防災活動、地域の見守り、防犯、こんなことがあるわけですし、また世帯には、特に、ひとり暮らしの高齢者世帯の問題とか障害者、そういう関係で、いろんな各種情報は区長さんあたりが、把握してなきゃならないところなんですけど、このところ個人情報の保護というのが義務づけられておまして、従来、自治会に提供されていた地域内の世帯ごとの住民情報が、行政からなかなか手に入りにくくなったというふうな声も聞こえるんですけど、この点は、どんな対応をされておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

総務課長（田原秀夫君）

お答えします。

市が管理しております住民基本台帳では、各世帯の状況、構成員は把握しておりますが、それを自治会、あるいは区の方に提供するという事は、現在は行っておりません。今、個人情報保護条例もございますので、それに基づいて行っているものであります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

この辺が時々、区長さん方からお話として出てくるもんですから、また、いろいろ調整していただいて、そういう法に触れるような形は、もちろん困るわけですけども、対応していただきたいというふうに思います。

それから各地区から行政への各種の要望も非常に多いわけですけども、どのような手順でお願いするのが、一番いいのかというふうなことで、特に区長さん方は1年、あるいは2年ぐらいで、交代される方がいらっやって、要望の仕方がわからないというような区長さんもいますし、また、事業年度が行政と一致してない場合もございます。

そんなことで、時にはもっと早く言ってもらえばというふうに、行政から言われたりするということもあるそうなんです、その辺、できれば行政区に対しては、こんな感じで要望については対応したいというような1つの標準的なものがあれば、お聞かせいただきたいといます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

要望の仕方と申しますか、そういう部分でのご意見だと思っています。

例えばここ3年ぐらいで見ますと、区でいいますと90から130ぐらいの地区から、毎年、要望をいただいております。形とすれば、合同要望というものも含めてでありますけども、ただ、今、渡辺議員の言われる要望の仕方がわからない、あるいは時期的な部分がわからないという部分がありななだと思っておりますけれども、そういった地区にはもちろんうちのほうから、やはりお知らせをしていく必要があるというふうにも思っておりますので、その周知方法については、少しまた考えさせていただきたいと思っておりますし、なお、またもう少し早く連絡いただければというような部分というのは、突発的な部分も当然あるというふうに思っています。

例えば集中豪雨等による災害発生時には、今現在は、それぞれの区の役員の皆さんから、少なくとも両事務所を含めまして、連絡をいただいているというふうに思っておりますけども、そういった突発的な対応をしなければならぬ場合も、当然、あるというふうに思っておりますので、そういった突発的な対応と、これまでの懸案事項での要望というような、大きくは2つに分かれるかと思っておりますけれど、改めてそういう部分について、お知らせするという形は考えてみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

その辺も、よろしくひとつお願いしたいと思っております。

3点目の広報広聴の現状と課題についてへ移らせていただきますが、なぜ今、広報広聴が大切なのかという点でありますけども、大きくは情報の共有と説明責任、これが挙げられるわけですけども、それとITの進歩で、待つ情報から得る情報と言われとるわけです。手段もいろいろあるわけですけども、特に、本市としてはジオパーク、それから新幹線開業、これが控えておりまして、大

変に重要な時期であるわけです。この広報の戦略プランといったものはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

市の広報といいますと、市の事業をわかりやすく市民の方にお知らせする、また、市民の方のご理解をいただくということで、広報の使命があると考えております。

この事業におきましては、各種の事業がございますので、その事業実施の際、あるいは計画の際に、それぞれの関係者の方にお知らせをして、また、ご意見をいただく、要望を反映していくという、そういう手続をとりながら事業の実施に努めているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

先ほど申し上げましたように、職員一人一人が、市政を推進するための広報広聴の担い手という自覚が必要だということで、特に、質の高い広報活動を行うにはということなんですが、まず、市役所内での情報の共有化、これに関してはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

庁内の情報共有ということでございますけれども、庁内では部課長会議はもちろんですけれども、庁内の各課の調整会議、あるいは各業務についての課、あるいは係間の連絡、そういう会議、日常業務の中での報告、相談、そういう中で情報の共有を図り、業務を進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

これから市民との協働ということですが、各種の事業を進める際には、特に、その事業と広報活動というのが、必ずセットであるべきだと、そういう意識が必要だということになると思うんですが、この点に関しては、どんな考え方を持っていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

渡辺議員のご指摘のとおりだと思っております。市民の方がご要望される事項、それをよく理解をして、事業の実施に努めていかなければいけない。また、市の事情もわかりやすく、計画の段階でありますとか、財政状況でございますとか、そういうものを市民の方に理解できるような説明をしていただくということが、重要だと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

もう1つ、広聴ですね、情報収集等も含めて。民間企業では、お客様の声ということになるんですけども、このお客様の声を集めることと、お客様の声を商品、サービスに反映する、この間にお客様の声を蓄積して、分析するということがあるわけですけども、行政におきましても住民の声を、住民の声の背後にある真意を探る。それから新しい事業に生かすといったことがあるわけですが、そういう考え方からすると、住民の声は民間と同じで、貴重な宝の山だというふうなことになるんですが、どのように捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

ご意見直通便等、あるいは訪問懇談会等で、市民の方々のご意見をいただいております。これは苦情だけというわけではなくて、建設的な提案も中にはございます、ご要望もございます。そういうものを市の職員が気づかないところを、教えていただいているという立場に立ちまして、受けとめておるところでございます。

先ほど全日空、日航の話もございましたが、お客様の感情に寄り添う、お客様の立場に立つということが、市役所においても大変大事だと思っておりますので、そのように努めていきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

民間ではお客様の支持を失うことは、企業の存続さえも危うくするわけでありまして、行政におきましても、本来、住民の支持なしに事業はできないわけですので、住民の声を集める、それから住民の声の真意を探るための分析、それから住民の声を政策に反映する、この3点をいつもセットで対応していただきたいというふうに考えるわけですし、また、今、広報の担当部署があるわけですが、広報担当部署に行政の各種の情報が集まる仕組みができていますのか。広報担当者が、各部署を

回って情報を集めているのか、その辺の実態はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

例えばですが、ご意見直通便につきましては、総務課の広報担当のところにとりまとめまして、それぞれの部署に回答するように依頼をしてるところでございます。

また、部課長会議等の開催もございますので、そういうところでは総務課の広報担当だけでなく、庁内全課が情報を共有する、同じような内容のご意見、ご要望もございますので、それが他課にかかわることもたくさんございます。そういうところで、共有を図っているところがございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

私は行政におきましても、この広報広聴というのは大変重要なものと考えておりますし、現在の組織機構の中で、総務課の広報情報係というふうになってるわけですね。もっと充実を図って、人材とあわせて広報広聴室といったような格付も、必要になってくるのではないかなというふうに思うんですが、この点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

広報広聴の重要性、非常に私も高いものだと思っております。

そういう中で、今、広報につきましては、いろんな情報を集めるようにいたしておるわけでございまして、例えば人をつくったとしても100%、職員の行動、また、市民の活動というのは、なかなか把握できるものではございませんので、それをどのように把握するかという形は、今、いろんな施策の中で展開をさせていただいております。

例えば、地域担当制にいたしましても、やはりその辺の情報収集したものは、すぐ上げてくるように、また、みまもり隊におかれましても、そういう機能も備えておるわけでありまして、ただ単に1つのポジションじゃないわけでありまして、そういう全体的なものが常に入ってくるような形、より細かく市民の中に入っていける、今、体制をとってきたわけでございますので、その辺の情報交換をしっかりとやっていければいいのかなと思っております。

ただ、問題、課題解消についてはなかなかいかない部分も、それはその中であるわけでありまして、しかし最低限、今ほどご指摘のように、情報だけはスムーズに入ってくるような形にはしていかなくてはいけないという形で、これはほかの職務についても同じでございまして、例えば懇談会にいたしましても100%、担当が出てくるわけではございませんので、そういったのも吸い上げて

きては、また対応しながらお返しをしてるという実情もございますので、広く、細かく情報収集をする形を、今、整えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

市長がおっしゃいましたように、非常に広報広聴、ここから市長へ上がってくる情報、非常に大切なことじゃないかというふうに思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思えます。

それから、4点目の地域づくりプランについてでありますけども、総合計画の中では、この地域づくりプランを策定するかどうかは地区住民の判断による。一見そのとおりだというふうに思うんですが、反面、地区の役員が短期間で変わったり、高齢化が進んでいる地域では、策定したくてもなかなか難しいというのも実情のようです。行政で必要と考えているのであれば、一緒に取り組んでほしいというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

現在の地域づくりプラン策定の例えば行政の支援という部分では、渡辺議員が今おっしゃったとおりの体制はとれているというふうには思っております。

ただ、自治会の実情、確かに1年で交代をされる自治会が、まだまだ市内にはたくさんございます。1年だから、もちろんいいとか悪いとかということではありませんけれども、1年で、また一方で地域づくりプランをつくり上げるかという部分については、これまでの策定経過を見ますと、なかなか難しい、行政側とすれば、できれば地区の大勢の皆さんが議論をして課題を見つけたり、解決策を見つけたりということ、この地域づくりプランの中では求めているところでもありますので、拙速に1年間で作る、つくるのが目的というもののプランであってはならないというふうに思っております。

よって、自治会の任期との関係もありますけれど、地域担当、あるいはまた、みまもり隊も含めて、今現在、対応してる地区もございますので、少なくとも地域担当が、そういった形で地域づくりプランの策定サポートをするという体制は、今後も引き続きとっていきたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今、課長がおっしゃるとおり、市長は平成25年度の施政方針の中で、市として地域づくりプランの策定や実現に係る活動を市が行うというふうにしてるわけですが、じゃあ具体的にどの辺までかかわっているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

例えばのお話をいたしますと、24年度、昨年度の上南地域におきまして地域づくりプラン、第1号が策定されました。例えば上南地区のプランができたからといって、上南地区のプランに右へ倣えというプランでは、なかなか地域の実情に即したプランではないと思われれます。よって、上南地区の経過をたどりますと、やはりプラン策定のコーディネーター役というのが、非常に大切なことも行政側では把握をしておるところであります。

なかなか自治会の運営につきましては、もちろん区長さんはベテランでいらっしゃいますけれども、そういった新しい分野での事業の展開という部分になりますと、なかなか難しいという部分もあるんだろうと思っています。そこをサポートするのが、我々行政も含めて、地域担当の役割だというふうに思っています。

上南の場合は、特に外部人材もコーディネーター役として投入して、策定をしてきました。場合によれば、こういったことも地域の実情に応じて、柔軟な対応をしていかなければならないかというふうに考えておりますので、引き続き、そういった意味では地域担当のほうが、どれだけ地区の皆さんと連携していけるか。上南の場合も会議の回数でいきますと20回を超える会議を、これはもちろん地区の皆さんと行政も入りまして行ってきたという実績がございますので、回数にこだわるものではありませんけれど、じっくりと地区の皆さんと膝を交えながらつくり上げていきたいというのが、今、我々の考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足のお答えをさせていただきます。

地域づくりプランにつきましてはご存じのように、我々が基本構想、基本計画をつくる中において、地域課題をある程度、推定・想定した地域づくりビジョンをつくったわけでございまして、これはその地域の課題というものを、結構大きく捉えておるわけでございまして、それに対して地域はどのように考えていくか、どのようにそれを捉えていくかというところが、地域づくりプランであります。

でありますから、その辺がまとまらないか、また、その辺をまとめていこうかという事柄が起きたときに、行政がどのように連携とれるのかというところが、大きなポイントになってくるんだろうと思うわけでございまして、その辺をよその地区の情報を流しながら地域はどうあるべきか、どうすればいいかという形に動いていただくことになるんだろうと思っています。

でありますから、地域づくりプランのエリアというのは少し広い範囲でございまして、1集落という形にはならないと思いますが、そういったところの情報を流しながら皆様方に、地域づくりのプランの方向性が、ある程度、動きたい、動き始めるといときに、行政がどのような形でできるのかということになっていくんだろうと思っていますので、その方向性によっては、まだいろんな支援があるのだろうと思っていますので、そういったビジョンから、またアクションプランをどのよう

につなげていくかというところが、やはりちょっと時間がかかるんだろうとっております。やはり地域全体のものにしていくのがプランで、それに対してどのような支援の仕方というのは、これから行政もやはりその辺を、まとめていかないかんだろうとっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今、市長のお話の中にありましたように、やっぱり既にプランを作成したところ、作成途中というこの手法等も、皆さんにやっぱりわかるようにしていただければと。そういう意味では、市のホームページでは、現在、大和川地区と浦本地区の地域づくりプランの作成に関する取り組みの实践を紹介してますよね。これを見れば、ああ、こんな手法でやれば、うちの地域もできないことないなというような感じでよくわかるわけですね。そんな事例をやっぱりきちっと紹介しながら、各地域へ持ち込んでいただければなというような気がします。

それから、この21地区の特徴を織り込んだ地域の将来像、この地域づくりビジョンの中で示されましたよね。これは作成していただけていますけど、日常生活の中で、なかなか浸透しにくいところもあるんですが、少なくともこの21地区に、この地区の将来像を書いた看板を最低1枚でも地区内に掲げるということで、かなり意識づけ、これもやっぱり図れるんじゃないかなというような気もしますんで、少しその辺、どうでしょうか、市と地域が一体になって、そういう対応もできればお願いしたいなと思うんですけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その辺も含めて、地域の方々がそういうものを掲げて、それに向かっていこうかという形になれば、もうプランのほうに入っていきうわけでございますので、私はそれでもいいと思うんですが、先駆けて、ある程度、行政改革の中で我々が想定したものを先にやっていくのは、ちょっといかがかなというような感じがしますので、地域の皆様方のまず一歩が、そういう形でもいいよという形であれば、これは問題なくさせていただければありがたいとっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

いい意味で、市内の地域間競争も大切なことかと思しますので、ぜひ前向きにお願いをしたいというふうに思います。

それから、5番目の地域担当職員とみまもり隊の活動でございますが、この制度について先ほどからも出ておりますが、成果がかなり上がっているというふうにお伺いをしとるんですが、この成果の上がっている事例を少し紹介していただきたいんです。

まず、各自治組織から行政への意見、要望の受け付け窓口、こういう関係では、制度を導入してどんな感じになったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

地域担当が基本的に窓口を、行政と地区のパイプ役ということを掲げてスタートいたしましたので、そういう部分においては、現在まで着実に地区と行政の窓口役は果たしてるといふふうに思っております。

ただ、今、みまもり隊の関係もあるんですけども、全ての地区に、今、みまもり隊を配置してあるわけではありませんので、主に中山間地域の4地域でありますので、地区担当そのものが地区の隅々まで目が行き届いているかという部分については、まだまだそういった状況には、ないといふふうに考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それから、行政から自治会への情報提供、これに関する事。それから大きなこととしましては、地域づくり活動の先ほどからの支援、それから地域課題の解決に向けた相談窓口、そんなことで適切なアドバイスを提供するといふふうになっとるんですが、この地域活動の推進に関しては、この制度の中ではどんな感じになっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

地域担当者の責務の1つでもありますので、地域づくり支援に関する事、こういう部分につきましては、適時、適切な部分で情報提供がされて、地区の皆さんからも好評いただいているといふふうに受けとめております。

特に、そういった地域づくりプランも含めた地域づくり支援ということでは、昨年度の実績で見ますと、全体の活動は350件ぐらいありますけれども、その3分の1が、そういった意味で、地域づくりプランや地域づくり活動支援に対する対応について、出向いているというような状況になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

中山間地域におきましてはみまもり隊、この6月からスタートしておるんですが、こちらのほうは総務省の外部人材活用制度の1つであると。総務省では、集落支援員という名称で、その中で集

落の状況把握、集落点検の実施、住民と住民、住民と市町村の間での話し合いの促進などを実施するというふうに書かれているんですが、このみまもり隊のもう少し日常活動の職務として、具体的にどんなことをお願いしておるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

ことしの6月から活動をスタートしております。11月末で半年が過ぎたところであります。半年の活動の中で主要なものをちょっと何点か申し上げますけれども、集落の巡回というのが、やはりウエートの的には、全体の活動の半分ぐらいの日数を費やしております。

この中には、地元行事への参加というのももちろんですし、地元の会議、先ほど出ました地元の総会であったり、役員会であったりとか、そういった会議。もちろん、地域づくりプランの策定の始まっている地域については、そういった会議への出席も行ってきております。

それから特に、これから冬場を迎えるわけでありまして、区長さん、あるいはまた民生委員さん、あるいは包括支援センター等とのつなぎ役をみまもり隊が行うということで、生活支援の部分も含めて、それぞれの所管の部署のつなぎ役をするというのが、集落巡回の中で行われている主なものであります。

それから活動が始まったばかりということで、もちろん4人の方は、今回、初めてこういった任務につくものですから、その任務の研修という部分も、スタートの段階では少しウエートを置いてきたところでありますし、また、隣接の上越市、あるいはまた小谷村等にも、こういった集落支援が配置されて、先進で活動されています。そういった皆さんとの情報交換とか勉強会を、これまで行っているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

この集落支援員という名称と、市の集落みまもり隊という名称、若干、受けとめ方が違うといたしますが、イメージが違うような気もするんですが、あえて支援を見守りという形で糸魚川市の場合にはしておるわけですが、中身は同じだとしたら、あえて、このみまもり隊としたのは、何か理由があるのかどうかという点と、先ほどからこの地域担当職員との役割の違いですね、この辺をちょっと教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

1点目の集落支援員という、これは国の制度上の名称であります。当市は集落みまもり隊という名称をつけました。特に名称にこだわったつもりはありませんが、集落支援という受けとめ方と、集落を見守りながら支えていくという部分を、もう少しやわらかい形で、平仮名で表現したという

ところだと思っていますので、特にそれ以上の深い思いはなくて、集落支援員制度の糸魚川版が、集落みまもり隊であるというふうに捉えていただきたいと思います。

それから、2点目の地域担当とみまもり隊の活動の違いということでもありますけども、地域担当は平成22年度から制度を導入いたしました。なかなか初めての取り組みで、地域担当そのものも活動のあり方、どういった活動をすればということ、行政と地域のパイプ役を果たされたという部分については、スタート段階では行政側も悩むし、また、受け入れ側といいたまいますか、対地域につきましても、その制度のやはり運用という部分で、位置づけという部分では、なかなか理解を深めていただけなかったという部分はあったかと思えますけれども、活動が4年目になってきました。そういったところでは、地区の皆さんのまず認知度が上がってきている。

先ほどの例えば地区要望等の行政の窓口の一本化という部分についても、かなり徹底してきているのかなというふうに思っていますが、そういった意味では、まず、地域担当が地域とのパイプ役のメーンを果たす。今度は地域担当が、本来、やはりそれぞれ担当する地区に十分な目配りが、いろんな意味でできればいいわけでもありますけども、なかなか1人の地域担当がもち得る範囲の中で目が行き届かないところ、そういう部分がありますので、そういう中で特に高齢化が進むところは、みまもり隊を配置して、みまもり隊がその目配りをカバーしてもらおうというような位置づけで、これまで行ってきてるところであります。

なお、みまもり隊は全ての地区に、まだ配置をしておりませんので、みまもり隊を今配置した地区については、地域担当とみまもり隊というのは、そういう関係の中で、これまで活動を行ってきております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

支援員とみまもり隊、どちらかというところと多くの自治体では、この地域担当職員制度の職員を、みまもり隊と称しているところは結構多いんですね。総務省でいう支援員制度は、やっぱり支援員というところが多いので、他の行政の対応と比較しますと糸魚川市の場合は、ちょっと違和感みたいなものを感じたものですから、今、お伺いしたわけですが、このみまもり隊の方々に住民と住民、住民と市町村の間での話し合いの促進という1項が、総務省のその制度の中にあるんですけども、具体的にどのようなことを期待しているんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

話し合いの促進が、1つの大きい柱になっております。これらの実績の中では、やはり先ほどの巡回の中でも申し上げましたように、地区の皆さんと行政側との真ん中に入ってという部分のことが主でありますので、これまでの実績の中では、例えば公民館との協議に入ったり、包括支援センターの関係でのお話し合いの中に入ったりということで、話し合いをもってきてるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それから、今、中山間地域の高齢化が進む集落では、中長期的には集落の存続問題、これをはじめ多くの課題があるんですけども、優先することは日々の生活なんですよ。

この日々の生活の支障を取り除くということは、喫緊の課題になっておるわけでございまして、そんな中でのこのみまもり隊なんですけど、かつて冬期保安要員制度というのがあったわけですが、そのときには、困っている世帯に対して、直接、手を貸してあげるといようなこともあったんですけど、今回のこのみまもり隊に関しては、直接、手を貸してあげるといような対応というのは、含まれていないんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

原則でありますけれども、そういった部分では、手を差し伸べるとい形にはなっておらないとこでありますけれども、ただし現場の状況等もあります。巡回中に発生したような緊急の事案があるとすれば、当然、対応することもあるわけでありまして、個人の部分についての手を出すという部分については、原則、行わないということになっております。ただ、その部分は、しっかりと所管につなぎ役を果たすといところは、任務として与えておるとこであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

地域によりまして、その状況が違うわけなんですけど、ホームページで、このみまもり隊員の活動日誌、これが紹介されておりますので見させていただきました。この6月から発足して5カ月が経過をしたわけなんですけど、今のところは、どんな感じで受けとめていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

5カ月、6カ月の時間の経過の中で、地区の皆さんから、まず知っていただくということが、みまもり隊の活動を進めていく上では、最低限必要なこととあります。そういった意味では、地区の皆様から認知をいただくという部分について、いろんな場をとらえて顔を出しながら、また、お話をさせてもらいながらといところが、これまでのやはり活動の一番大きいところだといふうに思っております。そういった中で、相談体制も構築されてきたといふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

冬期間、これからが大変な時期に入るわけでございます。住民が思っているみまもり隊の隊員活動、そして行政の思いとの間にギャップがあっては困るわけでございますので、その情報の共有と職務内容の共有をまず図っていただいて、成果を上げていただきたいというふうに思うわけであり

ます。
次に、6点目の市民との協働についてでございますが、先ほど協働を推進する目的は、市民だけでも行政だけでも実現できない、よりよいまちづくりを実現することではないかというふうに申し上げたわけですが、全国的な実態では、まだまだ行政は、みずからの都合によって市民に呼びかけ、協働を推進しようとしている傾向が強いというような言われ方をしてるんですが、この点に関しましては、どのように捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、チーム系魚川を通じて、一体感を持って今進めていこうという形の中においても、そういったものは、やはり十分に感じられるわけでございまして、今、みんなで、このチーム系魚川をつくり上げていく中において、いかがかというときには、やはり行政がもっと具体的な案を示せと、そういうようなことが結構多くあるわけでございまして、今、議員ご指摘のようなところは十分感じられております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

協働という言葉の意味は広いわけですが、いろんな協働のパターンがあっていいと思うんですけども、行政・地域双方に、どうも行政がお金を出して市民が知恵を出せば、それが協働だというふうな誤解を招いている側面というのもありますので、この点、そういうことのないように、本来の協働でやっていただきたいと思えます。

それから私どもも協働というと、当初はやっぱり行政改革につなげて考えてしまうといった側面もあったんですけども、単に行政のスリム化という観点でなくて、従来、行政の枠組みだけで進めてきた事業を、市民と一緒に新しくつくっていくプロセス、これも非常に貴重なものだというふうに思ってるわけなんで、改めてその点の、いわゆる協働の進め方について、もう一度お願いをしたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

総合計画の第6章でも掲げているとおり、市民との協働については、行政のほとんど全ての分野とっていいぐらいに、協働の部分が必要になってくるというふうに思っております。そういったことで、協働という観念も人によっても違いますけれども、同じ目的に向かってともに力を出してアクションを起こすという部分でありますので、こういったことについては、やはり行政の底流に流れるものとして、今後も進めてまいりたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

市長が公約として掲げたチーム系魚川でございますが、12月18日に設立総会ということでありまして、この16団体の参加ということは、具体的にどのような構成に今のところなっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、16団体でありますけれども、逐次またふえていくということでもありますけれども、現在、大きく区分でいきますと、商工団体、それから産業団体、観光団体、文化団体、体育団体と地域団体というような、大きくそういった区分の中で16団体が、この中に入っておるものであります。つけ加えまして、自治体ということで県と市も当然入っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

私も何回か提唱しておりましたふるさと市民制度も、ぜひこの中で取り組んでいただきたいなというふうなことで、大変期待をしておるわけなんですけれども、この設立総会では、事業計画とか事業の進め方、こんなことについても議論されるのでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

今月に予定しております設立総会においてでありますけれども、まだ25年度、残りは少ないんですけれども、25年度も残されております。そういった中で取り組む事業もありますので、18日の日には事業計画という部分でも提案をして、皆さんからご審議をいただくと、そういう予定を組んでるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

最後でありますけども、行政側でも旧来型の仕事のスタイルではなくて、新しい施策展開をするために、全ての業務の中で協働というのは大きな効果をもたらすというふうに考えておりますので、今回のチーム糸魚川には大変大きな期待をいたしております。そんなことで、よろしく願いをしたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

ここで11時25分まで、暫時休憩をいたします。

午前11時15分 休憩

午前11時25分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。〔10番 中村 実君登壇〕

10番（中村 実君）

おはようございます。

清生クラブの中村 実です。

質問に入る前に、自然災害によりお亡くなりになられました方々に、心よりご冥福を申し上げまして、異常気象による災害と糸魚川市の防災対策についての質問に入らせていただきます。

ここ数年続く大雪や異常気象による豪雨・竜巻・猛暑など、今までに経験をしたことのない災害が国内はもとより地球規模で発生しております。

糸魚川市でも、集中豪雨による地すべりや河川の増水などの災害も発生いたしました。この要因の一つとして地球温暖化が考えられます。

温室効果ガスの削減は先進国での努力が続けられてきましたが、経済に与える影響が大きいことから、地球温暖化対策は進んでいないのが現状であります。

当糸魚川市では京都議定書に沿った「地球温暖化対策実行計画」を掲げ、目標をはるかに上回る成果を上げていますが、全体で見れば一部でしかありません。

今後も地球温暖化が続くことにより想定外の災害が発生すると言われております。100年に一度の災害から市民の生命財産を守るためにも、防災計画の見直しが必要だと思っております。

そこで次の2点について伺います。

- (1) 今後どのような災害を予測し、どのような対策を考えているのか。
- (2) 今後考えられる災害を、現在のハザードマップでクリアできるのか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、地震、津波、風水害、雪害、火山等の自然災害、化学工場地域災害と原子力災害を予測しており、それらの災害に対する迅速な災害情報の収集、避難情報の確実な市民への伝達、関係機関と連携した防災体制の構築を進めてまいります。

2点目につきましては、現在、洪水、津波、土砂災害、地震、火山のハザードマップを発行いたしております。

まず、自助活動が大切であり、災害時の危険箇所を認識し、適切な避難行動につなげるためのハザードマップとなるよう、国、県等で新しい調査結果が公表された場合には、随時修正して、市民の皆様に周知、啓発をしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

ありがとうございました。

今ほどの答弁は、現在の防災計画に沿った答弁だというふうに私は思っていますが、最近では異常気象が大変、世界各国でも起きているということで、私は異常気象による防災・減災に取り組む必要性を、これから質問をしていきたいというふうに思っています。

異常気象といえば10月9日に、国内の10月における最高気温35.1度を糸魚川市が塗りかえるということで、当地域でも異常気象と思われるような現象が起きております。また、本年だけを見ましても、竜巻、台風、豪雨など、日本はもとより海外でも、多くの大きな災害が発生しております。その災害を見ますと、当地域にも当てはまるような災害があるのではないかとこのように感じております。

今回の台風26号では、24時間に824ミリという、観測史上第1位という猛烈な豪雨により、伊豆大島で斜面崩壊が発生し、多くの犠牲者を出してしまいました。この三原山は、過去に何度もの噴火を繰り返しており、その噴火により降り積もった火山灰が、数メートルの厚さで堆積しているということであります。このような地域であっても、これほどの災害は想定していなかったということでありまして。私はこの伊豆大島の大惨事を見て、焼山流域はどういうふうになっているのかということで、大変心配をしておりました。

このような災害を見て、市長、また消防長はどのように感じているのか、お伺いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

焼山地域の災害についての危険箇所につきましては、国交省、それから農水省、林野庁というようなところで、いろいろな危険地域の指定がなされておるわけでございます。ただ、個別の箇所の災害が起きたときに、どのような規模の災害になるかというようなものにつきましては、まだ調査をされておりません。

当市の防災計画につきましては、危険箇所の指定の有無にかかわらず、土砂災害予防、土砂災害情報の伝達等についての総括的な記載というのがされておりまして、ハザードマップ等の配布によりまして、啓発に努めてるところでございます。

それから危険箇所を含め地形的に危険な箇所につきましては、土砂災害防止法に基づく調査を新潟県が今進めておりまして、調査が完了した箇所から、随時、地元説明を行っております。最終的には、それらを整理いたしまして、ハザードマップをつくりまして、それぞれの地域に配布をしたいという計画であります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

ありがとうございました。

新潟焼山の第1期目の活動は、約3000年前だというふうに言われております。歴史的には、大変新しい火山であります。過去の火山史を見ますと、火砕流や降灰が何度も繰り返されているということで、1949年には大雨のために、泥流による災害が発生したということが記載されております。このようなことをやはり考えると、規模は別としても、伊豆大島と同じような災害が発生するというふうに考えられるわけですが、この地域防災計画、今ほど言われた防災計画は、当然、早川地域も入っているわけですが、どれぐらいの災害を見据えた防災計画になっているのか、伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

先ほどの答弁の中で、具体的にどのような被害を受けるかという調査は、されてないというようなご答弁をさせていただきました。具体的に焼山を起源として、早川流域に火山灰が堆積をしてるわけなんです。それらについての具体的な調査というのは、今現在されておりません。

ただ、平成25年から27年にかけて、国土地理院が1万分の1程度の詳細の地形図、及び地質の分布をあらわす火山土地条件図というようなものを作成する予定でございます。そのようなものが地図として公表されましたら、また市民の皆さんに周知をしまいたいというようなこと

で考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

今回の三原山の災害を見ますと、火山特有な地盤ということで火山灰の災害、大体数メートルと
いいますんで、何メートルというのは言われてないんですが、数メートルの厚さで堆積してるとい
うことであります。

早川沿いも当然、過去に数十回爆発が起きてるといことなんで、相当の厚みの火山灰が堆積し
てるのではないかなというふうに思っていますが、その辺の調査とか、そういうものは今後してい
く予定はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々も火山を有してるわけでございまして、今回、特に伊豆大島の災害というのは、非常に関
心のあるところであったわけでありまして。

そのような中で、我々がちょっと調べさせていただくことによりまして、必ずしも一致してない
ところがございます。表面は勾配が同じであったり、火山灰であるというのは同じなんです
が、地下の岩盤等の位置がどこら辺にあるのかということによっても、変わってくる部分
がございます。

そのようなことで我々も今注目する中において、今回、特に伊豆大島では11月17日に、「分
かっていたこと、分かったこと、分からないこと」ということをテーマに、今、日本ジオパーク
ネットワークと、また日本ジオパーク委員会、そしてこの2つの連携によって、大島で地域の
皆様方の説明会を開いております。そのように、この国土交通省のデータを使いながら、そ
ういったものを今進めている段階においては、地質や地形というののもやはり十分に重要だ
というところが、住民の皆様方にも理解していただけることが大切であろうということ
で、ふだんでありますと、もうしばらくしてからといいましょうか、明確になるのは1、2
年後になるんでしょうが、早急にそういうものを取り上げたということは、非常に我々
といたしましても大切だと思っております、これからはやはりそういったことで、我々
はもっと地形と災害というものをもう1回確認しなくちゃいけない。また、特に我々
糸魚川市はジオパークに取り組んでおるわけでございますので、そういったところは
非常に有利に展開できるんだらうと思ってるわけでございますので、そういった地質を
調べながら、ハザードマップに連携とれるものは、とっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

ぜひお願いします。

火山史の中で記録に残っているのは、887年以降3回ぐらい大きな噴火を起こしているということですが、当然、似たような地形なんではないかなというふうに私は思ってます。

昨年の8月に、私、前にも質問させていただいたんですが、新潟焼山火山噴火緊急災害防災計画が策定され今期2回目ですよ。来年には、合同訓練の予定があるということではありますが、この合同訓練の中に今回の伊豆大島の教訓といいますか、今、わかる範囲でもよろしいんですが、このようなものを盛り込んだ訓練を行う必要があるというふうに私は思っているんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

当初の訓練の計画の予定は、焼山火山の爆発みたいなものを想定した訓練ということでありましたので、その当時は、伊豆大島の例がなかったわけでございます。

ご指摘のように、当然、訓練ということになりますと、そのようなことも含めて新潟県サイドとも協議をさせていただく中で、必要があれば訓練に取り組む必要があるというふうに考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

ぜひ県と話をしながら、こういう時期でありますので逆にやっていただければ、防災意識の向上にもつながるのではないかなというふうに私も思います。

先週、市長と消防長が、蒲原沢の慰霊祭の献花式に出席をされました。その蒲原沢も上流1,300メートルの右岸で発生した災害であります。それもやっぱり火山噴火などでできた境界線からの土砂崩落ということで聞いております。糸魚川市では、早川をはじめ火山灰による土石流とか、そういう災害が起きるところが多くあるというふうに思っています。

そういったことで今後、防災訓練等もありますが、警報基準や避難の手順の見直し、そして当然、防災計画も見直していかなければいけないというふうに私は思っているんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

ご指摘のとおりでございます。客観的に判断基準を定めるというようなことが、非常に大切になってくるというふうに考えているところでございます。

それに基づいて、できるだけ迅速な避難情報を住民の皆様方に提供し、自己判断に基づいてきちんと安全な場所に避難できるというような体制を整備していくことが、大変重要であるという認識であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

いろんな災害を見ながら、その辺の手順を見直していただきたいなというふうに思いますし、早川の焼山の上流のほうでは、砂防整備がもう既に相当行われてきて、安全が相当上のほうは確保されてきていると思うんですね。今後、下流域での安全をもう少し考えた、訓練にしていっていただきたいなというふうに思っております。

次に、11月18日に台風30号、これはフィリピンで発生した大きな台風であります。この台風は最大風速が87.5メートル、最大瞬間風速が105メートルという過去に類を見ない大変大きな災害で、多くの方が亡くなってしまいました。この災害は、竜巻に匹敵するような強風と、局地的な低気圧による高潮に長時間襲われたことにより、大きな被害が発生したということです。

糸魚川におきましても、地震イコール津波という意識は既に高まってきておりますが、台風や暴風による高潮への意識は、これはまだ低いのではないかなという、逆に無に等しいくらい皆さんは知らないのではないかなという気がしますが、今後、高潮への防災意識を高めていく必要があると思うんですが、消防長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

ご指摘のとおりでございます。なかなか高波というような被害は、特に冬期を中心にして糸魚川は何回も経験しておりますので、そういう認識は深いかと思っておりますが、高潮ということにつきましては、今まであまり実例もないものですから、ご指摘のように意識的には低いというふうに感じるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

住民の方々にもこの辺では高波、越波ということは、過去にも災害がありましたので、その辺の意識はあると思えますけど、高潮についてはそんな意識は薄いのではないかなと。

高波の場合は海岸に強風が吹きつけることによって、水面が上がって陸地を襲うということですが、高潮というのは台風とか強風によって起こるものでありまして、例えば台風の目のところは大変に気圧が低く、周りが気圧が高いということで、中心の気圧の低いほうは盛り上がっていくという、その現象が陸地へ向くことによって大きな被害を出すと。高潮と高波等が重なることによって、大変大きな被害が発生するということですね。

気圧が1気圧下がると、海面が1センチ上昇するということではありますが、30号の場合は気圧が65ヘクトパスカル低下したということで65センチ、単純に言えば上がったということですね。それに高波、暴風が重なって大きな被害が発生したということでもあります。

そういったことを考えると、高潮災害に考慮した高潮ハザードマップの作成も今後考えていく必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

全国的な高潮が多い例といたしまして瀬戸内海沿岸だとか、九州ですと有明海、それから東京湾というようなところの市町村が、高潮のハザードマップを既につくっておられるところもございます。高潮につきましては、津波のハザードマップとあわせて普及しているような例が多いわけございまして、全国的な例を調査いたしまして、作成する必要があるかどうかも含めて、検討してみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

今ほど消防長が言われたように、確かに私たちの住む日本では、太平洋側が大変高潮災害が多いということであります。

そういったことで山口県の宇部市では、高潮ハザードマップを既につくっております。これは昭和三大台風の1つである枕崎台風が、大潮の満潮時に宇部市に上陸し、高潮が発生した場合を想定してつくったということでもあります。その発生確率は500年に1度の発生確率ということで、市民の生命・財産を守るために、行政としてできる限りのことをやらなきゃいけないということで、500年に1度の災害を見据えたマップをつくっているわけであります。

糸魚川市としても500年に1度ということもできないでしょうが、せめて100年に1度ぐらいの災害を見据えた中で、この高潮ハザードマップ、今後、異常気象により発生すると思われる、このようなマップも作成するべきだと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

100年、500年という非常にスケールの大きなお話であります。また、専門家の方のご意見等もお聞かせいただきながら、ご提言について検討してみたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

ぜひ、県内でも数カ所つくっていると思うんですが、よろしくお願いします。

次に、内水氾濫について伺いたいと思います。

大雨による洪水には、外水氾濫と内水氾濫というのがあります。外水氾濫はご存じのように堤防

が決壊したり、河川の水位が上がって堤防から水があふれることが外水氾濫。それから内水氾濫は、河川から水があふれるのではなくて、降った水をスムーズに、水位が上がったことによって水が流れなくなって、それが平地に氾濫するというのを内水氾濫というわけですが、糸魚川市でも都会と一緒に、アスファルトが大変多くなってきております。そういったことで地下に浸透する水が減ってきているということで、氾濫が起きやすくなってきているということです。

そういったことで、その氾濫した水が下水道や水路に流れ込むことが、今後、考えられるというふうに思います。この内水氾濫という言葉も、あんまり聞きなれない言葉ではありますが、消防長はご存じでありましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

皆さんご存じのとおり、当市は非常に急峻でございます。雨が降ってから海に流れるまでという時間が非常に短いということもございまして、ほかの市町村と比べてまちの中に水がよどんで、排水がされないということが少ないものですから、そういう意味では、非常に恵まれているのかなというふうに、実は考えてるところでございます。

ただ、じゃあ市内の体制はどうなっているかといいますと、もう最近是非常に雨が多うございしますので、大体雨が降ると水が浸かる場所というのがわかっております。市内では関係課で連携をとりまして、もう事前に予防するもの、それから起きたときにどう対応するかというようなことにつきましては、役割分担をした中で、そのような対応をしておるところでございます。

また当然、糸魚川市において、そういうハザードマップが必要かというようなお話にもなってくると思うんですが、そういうものにつきましては、当然、下水路の整備だとか、河川改修を今行っているわけございまして、その上で、つくる必要があるということであれば、そのようなことも検討してまいらなければならないというふうに考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

今までの予想してる雨ぐらいなら大したことないんですけど、この異常気象による豪雨ということを考えれば、やはり内水ハザードマップの作成も、私は必要になってくるのではないかなというふうに思っています。

ハザードマップをつくることによって、消防署はもとよりガス水道局では、下水道や雨水管の逆流がどの辺で起きるのかという対策とか、建設課だと、側溝から水があふれるところはどこなんだと。また、教育委員会では、通学路に水が乗って、子どもたちの安全が損なわれる場所はどこなんだというようなことも、このマップによってわかるということで、このハザードマップをつくっているところでは、市民の防災意識の向上はもちろんのことではありますが、マップにある低い場所のところでは、新築時に地盤のかさ上げをやると、それとか建物への水の浸入を防ぐということを、

行政が指導しているということであります。

そういったことを考えると、やっぱり豪雨という中で、今後、考えていかなければいけないのではないかなというふうに私は思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

今、ご提言をいただきましたように下水道とか、それから排水関係の都市整備とか建設があるわけでございます。関係課長のまたご意見も聞かせていただく中で、調整を含めて検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

実際に、いろんなところで水が氾濫することによって、マンホールのふたが開いてしまう。そういったところに人が落ちるとか、通学路あたりに安全柵がないところに、例えば人が流れる、子どもが流されるということも発生している事例もあります。

私の事務所の近くでも、能生中学校のグラウンドの裏に通学路があるわけですが、あそこも数カ月前の豪雨で境界がわからなくなって、大変危ない場所がありました。やっぱりそういうところを内水ハザードマップをつくることによって、チェックができるということでありまして、また、工事にもかかれるということでありまして。これは市民へのそういう対策、周知というところでも役に立つのではないかな。

国土交通省のハザードマップポータルサイトを見ましても、洪水、内水、高潮、津波、土砂災害、火山の各ハザードマップが掲載されているわけですが、糸魚川市の高潮ハザードマップ、これはつくっていないということでありまして、載っていないということでありまして、今後、幾つもの偶然が重なることによって、大きな事故に発展するということ、この異常気象があると、どうしてもこのような大きな災害が発生する。

そういったところで、今後、そういうものを利用していかなきゃいけないなというふうに思いますし、市民への意識の向上と、また、いざというときに、消防署員の活動が大事ではないかなというふうに私は思っていますが、話を聞くところによりますと、新年度には消防職員が減るという話を伺っております。現在は消防本部が12名、各消防署が79名の91名体制ということで、今までやってきたわけですが、新年度には何人の職員の採用があつて、何人やめられるのか、合計何人になるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

現在、91名の職員がおります。来年度の新採の予定は、3人ということになっております。退

職の予定は、今のところのお話でございますが、6名ということでございまして、まだ人事等が発令されていない段階で、今現在の見込みということでございますが、計算からいくと88名という数字になります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

私は91名でも、ぎりぎり動いているのではないかなというふうに思っております。

現在、行財政改革の中でも適正な職員数というのが議論されておるわけですが、市民の生命、財産を守る消防職員に関してはふやしても、減らしてはいけないなというふうに私自身は思っております。

今後、高齢化が進むことによって、交通事故や病気による救急車の出勤回数、そして今ほど申し上げましたように異常気象が進むことによる災害、そういった事例があれば91名、これは少ない体制ではないのかなと。そうなれば、職員への負担が今以上に多くなるというふうに考えるんですが、いかがですか、91名。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

ご指摘のように高齢化が進んできておりまして、高齢者の方が増加するということになると、救急車の出勤が多くなってくるわけでございます。現在、年間に2,000件程度ということで、ちょうど横ばいでございます。そういう中で、消防車両だとか資機材の高度化を図る中で、省力化にも努めているところでございますが、先ほど議員からもご提言がありましたように、最後は人の力、マンパワーというところもあるわけございまして、我々とすれば一人一人の消防職員の能力を高めて、職員の個々の能力を最大限に発揮できるような状況をつくり出す中で、消防行政を担っていきたいというふうに考えるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

当然、例えば消防団の方も高齢化が進んでいるし、また、入る人も少なくなってくると。そういった中で、いざというときに、その消防団の人たちの力もなかなか借りられないということになれば、やはり91人体制というのは、今後、見直す必要が出てくるのではないかなというふうに私も思っておりますけど、まだはっきりは言えないでしょうけど、職員数の見直しというのは、今後あるもんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

その点につきましては、消防職員に限らず行政一般として、市民の福祉のためにどれほどの仕事が必要なのか、また、それに対するどのような職員数が必要なのかということは、常々、見直していかなければならない課題というふうに認識しておりまして、当然、消防職員につきましても何人が適正なのかというようなことを、消防自動車、それから消防団の皆様、それから自主防災組織の皆様、そういうものをトータル的に判断しながら、やはり消防職員のあるべき姿、また、人数というようなものが、決められてまいるものというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

中村議員。

10番（中村 実君）

ぜひ今後の異常気象を考えたときに、大きな災害がこの地域でも起き得るというふうに私は思っております。ぜひ災害のない地域にさせていただきたいことと、それからいざというときに頼れるのは消防職員だというふうに私は思っています。

私は過去に何度も、この防災とかそういうものに対して一般質問を行ってきました。私がなぜこんなにやるかということ、11歳のときに小泊の地すべりを経験しております。31戸の家が潰れて、25名の死傷者が出たという災害であります。私も当時、そのときに学校が終わってしまして、家の近くで遊んでいまして、私の家が潰れていくところを目の当たりにいたしまして、叫び、泣いた覚えをいまだにしております。そういった経験を皆様にしていただきたくないということで、何度もこういう質問をさせていただいております。

ぜひ市民の生命・財産、安全・安心を守るために、消防をもとに皆様方の力強いご尽力をお願いいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（樋口英一君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

関連質問なしと認めます。

昼食時限のため13時まで休憩します。

午前11時59分 休憩

午後 1時00分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

議長（樋口英一君）

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

19番（五十嵐健一郎君）

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、市政運営の政策決定手法について。

チーム系魚川の総会が、この18日に開催の運びとなりました。さらに総合計画の実施計画も間もなく発表されようとする中、どんなすばらしい事業や施策が入っているのか、わくわくする気持ちであります。

また、9月議会での古畑議員の一般質問で、限界集落の現状と支援の拡充の中で、行政はどういう制度、どういう対応、新たな展開等、地域の皆様と話をし、連携をとりながら協議をさせていただいて対応するとの答弁であり、期待を込めて、以下項目を具体的にお伺いいたします。

- (1) 市政全般に関わる重要案件については、政策を決定する前にワークショップや意見聴取会等の「シンポジウムシステム」を導入していただきたいがどうか。
- (2) チーム系魚川による具体的な緊急戦略プロジェクトの展開を図る必要があると思うがどうか。
- (3) 自治組織への支援拡充について。

市町合併の効果等の検証と課題把握について。

地域づくりプラン策定の取組状況と支援拡充について。

既存組織の統合再編と各種制度・補助金・交付金等の分析・整理・検討について。

市職員の地域活動への参画推進と職員提案の充実及び市民提案（ふるさと市民も含む）制度の実施について。

地域内分権制度の取り組みについて。

ア 各地域の活性化事業などに自由に使える「地域づくり交付金」の創設について。

イ 地域づくり・地域自治支援員の派遣等の充実について。

旧学校跡地等の利活用計画の検討・実施について。

2、教育の充実についてお伺いします。

(1) 教育環境整備基本方針の策定及び学校統合の理念について。

(2) 全国学力テストの成績公表方法と学力・学習状況の調査分析・指導改善策について。

(3) 土曜授業のあり方等についての考え方。

(4) 中学校の部活動の現状・支援の仕組み・あり方について。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、市では重要な施策や計画などを策定する際には、審議会や検討委員会等を設置するとともに、関係する地域審議会や区長会等に諮っております。

また、市民の皆様から意見を求められるパブリックコメントも実施いたしておりますことから、現在のところ、ご提案のシンポジウムシステムの導入は考えておりません。

2点目につきましては、当面、糸魚川市全体のチームワークを高める活動と、糸魚川を知り、糸魚川に愛着を持つ活動を行ってまいりたいと考えております。プロジェクトの展開は、その後の活動として検討してまいりたいと考えております。

3点目の1つ目につきましては、効果等の検証と課題把握を行うことにより、合併効果を生かしながら今後のまちづくりにもつなげてまいりたいものであります。

2つ目につきましては、プランを策定した地区が1地区、策定中が5地区あります。支援の拡充につきましては、事業の進捗状況を見ながら、必要に応じて対応してまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、各自治組織において方向づけされるものであり、そのように捉えてまいりたいと考えておりますし、行政としては、地元の意向を尊重してまいります。

4つ目、市職員の地域活動への参画につきましては、これからも継続して推進してまいります。

職員提案につきましては、今年度は事務改善や行政施策をテーマとして提案募集いたしております。市民提案制度につきましては、ご意見直通便を通じ提案を受けております。

5つ目のアにつきましては、まちづくりパワーアップ事業及び一般コミュニティ助成事業、地域づくり活動支援事業等がありますので、既存制度を活用していきたいと考えております。

イにつきましては、地域担当者制や集落みまもり隊を導入いたしており、現在のところ制度の拡充は考えておりません。

6つ目につきましては、これまで公募や地元自治会との意見交換を実施してまいりましたが、有効な活用方法が見出せない状況となっております。

2番目の教育の充実のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答

弁もありますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、学校施設長寿命化計画に基づき、学校整備計画の見直しを行っております。

また、学校統合につきましては、今後、子ども・子育て会議での検討結果を踏まえて、基本方針を定めていきたいと考えております。

2点目につきましては、市としては教育上の効果や影響を考慮し、また、児童生徒の個人情報の保護の観点から、学校別結果の公表はしない方向で検討しております。

教育委員会と学校では、今年度の学力・学習状況調査の結果を分析し、成果のあった点や課題となった点を明らかにして、各学校や校長会等で協議し、学習や授業の改善に努めております。

3点目につきましては、市としては学校週5日制の実施に伴い、地域と協力して子どもたちの居場所づくりに力を入れ、また、教育委員会としても文化振興課や生涯学習課が中心となって、子どもたちのさまざまな体験活動の事業を展開してきたところであります。

このような土曜の過ごし方が定着している中、改めて子どもたちを学校へ集めることは必要ないものと考えます。

4点目につきましては、正式には課外活動という教育課程に位置づけられた教育活動以外の活動であり、それぞれの中学校において学校事情に応じて行われております。

また、部活動を担当する教師が、必ずしもその道の経験者ではないことが多いことから、地域の指導者からご支援をいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

最初のほうは午前中にも渡辺議員が質問したんで、何も言うことないと言いたいんですが、若干時間がありますので、質問をさせていただきます。

まず、1回目でありましたように、9月に古畑議員から質問がありましたように、この問題について検討とか、詳しい内容とか、各地域に行ってどう対応策を考えたのか、お伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

9月の一般質問終了後、地区担当も含めまして地域の代表の方とも話し合いをさせていただいております。現段階では具体的な部分では、まだここでお示しすることはできませんけれども、今現在、新年度の予算編成作業が、今、進行中でありますので、何らかの形での支援を行っていきたい方向で検討してるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

順番が、ちょっといろいろな形で飛ぶかわかりませんので、その対応も含めて明快に答えていただきたいと思います。

先ほど午前中、渡辺議員の質問の中にあつたんですが、各区、自治会等、いろいろな総会とかやってると思う。資料の把握をしてないというのは、ちょっとおかしいと思うんですが、各それぞれやったところを先ほどの答えだと、それを踏まえているいろいろな形で予算とかやるんでないでしょうか。資料を収集してないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

午前中、渡辺議員にお答えいたしましたのは、各自治会の総会資料ということであります。現実には、振興協議会とか大きい組織になりますと、職員といいましょうか、地域担当の出席、あるいはまたみまもり隊等の出席もありますけれども、184のそれぞれの行政区においても、総会というものが行われているわけでありまして、そういったところへは特別出席ということとしてはしておりませんし、特に、資料もいただいていないということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

要望等が出て、また、総会等もみまもり隊や地域担当者が出席してないところもやっぱり情報を集めて、全体を把握するべきだと思うんですね。その辺は今後の対応も、もうやらないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

まず、行政区というのは、あくまでも住民自治の中で行われていく部分になります。一般的には、住民自治の中で要望事項が出てきますと、やはり行政に対する要望も、当然あるというふうに思っておりますけれども、それらはこれまでの中では市長要望という中で場をつくって、要望活動が行われてきている。それが今度は行政区へ持ち帰ったときに、それが事業報告として区の皆さんに報告されたり、あるいは、また事業計画として新年度の要望事項の中に組み入れられるという仕組み

が一般的だというふうに捉えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

その辺、ちょっと突っ込めば時間がかかるんで、こっちの地域内分権の關係の地域づくり交付金と地域自治の支援員ですね。この關係で、私、いろいろな形で見ていると、富山の南砺市、これがやっぱりすばらしい事業をやっと思っと思うんですが、これの把握はされてるでしょうか。ある程度、この辺の把握状況と、みまもり隊、地域担当制も含めて、この辺、どう考えてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

南砺市の事例につきましては、23年度から試行的に始まっている制度については、書類の上でありますけれども、一通り確認をさせていただいているつもりであります。あわせて、その支援員制度につきましても並行して進められている制度でありますので、現在までの状況については、書類の中では確認させていただいて、現在、2年間の活動を振り返った制度の見直しが行われているところまで、承知をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

渡辺議員の中にもありましたが、自治会とか区が本当に手弁当で、自治会長とかいろいろな形で、暇がいっぱいなんですよ。毎日、窓口を含めてやられるということもございますし、この辺の活動支援は、やっぱり考えてないんでしょうか。

私は今ほどありましたように、交付金の形でやるべきだと思っ思うんですが、今やってる制度を含めて、補助金をまとめてやるべきだと思っ思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

南砺市においては、糸魚川よりも少し早く、半年ほど早く合併していますけれども、合併前からの経緯として、4町4村が合併してるわけですけども、合併前の制度として、やはり下地があったことが、一番大きい要因だというふうに思っています。

といいますのは、今、五十嵐議員の言われる自治会に対する交付金とか、あるいはまた住民自治活動推進のための交付金が、合併前、合併後、引き続き行われていた素地があって、そこへまたいろいろな例えば防犯の關係だとか、防災の關係だとか、そういった分野のものが合わさって、地域づくり交付金というふうになっているものでありますので、現時点では、今、地域づくり交付金と

というような発想でのものは、我々の中で考えていない状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

今、地域づくりプランですか、これも若干の補助制度もあって、上南地区が20回ぐらいですか、地域づくり協議会をつくってやる形で、自治会や自治協議会、区単位でやられると思うんですが、私はそれじゃやっていけないと思うんですわ。その辺、どうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

上南地区は、昨年、プランをつくって、ことしから地域づくり活動支援事業の対象地区であります。この中では、もちろん事業補助といいたいまいしょうか、事業に対する補助はもちろんなんですけれども、今言われる、事務費という言い方はしておりませんが、その会の運営に必要な部分も支援の対象にしている、そういう状況で動いておりますので、まさにこの地域づくりプランの運営の中で、地域づくり活動支援の中でと言ったほうがいいかもしれませんが、支援をしていくという考えでありますし、仮にこの糸魚川の21地区が全てプランをつくって、地域づくり活動支援を行っていくということになりますと、年間2,000万円ぐらいの規模を考えていかなければならないのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

私は違うと思うんですよね。の既存組織の統合再編、私、この26年4月から公民館が再編されてやられると。6地区が1.5人ですか、それも含めて既存の公民館、それと生活安全とか、環境保全とか、健康福祉も交えた中で、地域振興も含めて、地域づくりプランも含めた中で、全体を含めた既存組織を統合して、地域づくりは、それ全部含まれると思うんですよね。そうなるまちづくり委員会とか、いろいろな名称はあると思うんですが、それが今、21地区ぐらいになるんですか、そこを公民館も含めながら、いろいろな形でやるべきだと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく地域、公民館を中心とするエリアの地域づくりプランという形の中において、そのエリアはどのようにお考えになっていくのか。住民の皆様方がどのようなことを中心にしていくかとい

うところを、やはり住んでおられる皆さん方が一堂に会しながらプランをつくり上げていくことが大切だと思っております。

そういう中においては、今、議員がご指摘のような方向も、当然、あり得るだろうと思うわけがありますし、やはりその地域には、その地域に合ったやり方がある。また、その地域には、そういったいろんな面を生かす中において進めていかれるわけでございますので、そういったものをやりながら、行政との連携はどうできるのかというところになろうかと思っております。

まさしく、これからの時代、やはり自助・共助・公助という形の中で進めていかななくてはいけない部分で、最初から、金があるからそれに取り組むというような形であれば、私はやはり持続しないのではないかなと思っております。

それがよくご指摘いただくように、上意下達型の官主導型は根づかないというようなことがあるわけでありまして。そういったことをみんなで、やはり地域の事柄についてご論議いただき、そしてまとめて、どういう方向でいくかというのを立ち上げていただきたい。それがプランだろうと思えますし、また、我々が今進めておるこの厳しい財政状況の中にあっても、そういう形で進めることが、これからのまた方向性にもつながるだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

本当に6地区を見ると、今、地域づくりプランも含めて、アンケートや立ち上げてやってるところもございまして、いろいろな形で公民館だけじゃないんですね。各種団体の事務だとかいろいろな形で携わって、地域をどうやっていけばいいのか、地域づくりプランの中にも含めて全部、旧村単位ですよ、糸魚川地区にすれば村単位と一緒に、自治会なら本当に村長さんですよ、その区域を全部把握して、公民館も含めて全部やっておられる。

その中で、やっぱり職員を減らされることで、かなりいろいろな形で出てきてるということで、公民館だけでなく自治組織として全体、公民館も含めた中での対応を図るべきだと思いますし、長野県の飯田市もかなり取り組まれておりまして、岐阜県の恵那市も、これちょうど人口的にも、やってると思われますし。

あと、和歌山県の高野山のほうの高野町ですか、それも全国から村づくり支援員制度って全国公募して、5名の職員を選んで、全国から162名応募があったそうです。それで、その中から5名選んだそうですが、そういうやり方もあるし、出身者の人にやってもらうとか、それで職員、本当に臨時も含めれば六百何十人ですか、おられる中で、各地区へ行ってもらう方式もございましてしょうから、ぜひこういう先進地も含めて、連合区長会からいろいろな形で出てる、先進地視察、いかがでしょうか。こういう形も糸魚川にどうできるか、その辺、含めてバスとか出していただけないものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、地域みまもり隊、または地域担当制をひいております。これもやはりマンパワーということになりますと、お互いの信頼関係が大事になってくるわけでございますが、まずは今スタートして、みまもり隊につきましては6カ月ぐらいたっているわけでありましたが、やはり信頼に足り得る、また、この人は本当に地域のことをやっていただけるかって、やっぱりそういった信頼関係が大事になるわけでございますので、そういったところを構築しながら、これからどういう課題に対して、そういう問題をしっかりまとめてから対応しないと、ただ、いいところを見てきて、それを右から左という形には、私はならないんじゃないかなと思っております。

そういうようなやはり自分たちの目的、自分たちの方向性、そういうものをまとめていく中で、今、ご指摘のような点があれば、私はやぶさかでないと思っております。いいところは全国にいろいろあるわけございますから、自分たちに適したいいところへ視察へ行くのが、一番いいのだらうと思っておりますので、そういった制度につきましては、そういった方向がまとまってくるようになれば、私はやぶさかでないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

それで見まもり隊、4名ですよね。先ほども渡辺議員の質問の中にもありましたが、いろいろ6カ月活動して、深い思いがないって答弁されたんですね、深い思いがない。深く追求してくださいよ、4人、6カ月もおれば、何だかんだでできると思うんですね。その辺、あれですか、今後の対応とか含めて、どうされようとしているのか。新年度の予算もありますし、実施計画もございます。前回の実施計画を見ますと、26年、27年と倍額か、ちょっとふえてますよね。その辺の方向性も含めて、どうしていくのか、お伺いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

前段の深い思いはないというのは、渡辺議員の国の制度は集落支援員という名称を使っていて、糸魚川市は地域みまもり隊という呼び方をしています。ここに深い意味はあるのか、ないのかというご質問だったかというふうに思っております。趣旨とするところは、国の制度と同じでありますけれども、糸魚川版ということで、より地域に密着した形での隊員の名称として、平仮名で「みまもり隊」と、こういうふうにしたのが経緯でありますので、よろしくお伺いしたいと思っております。

それから、みまもり隊の後段のご質問であります。市長のほうから制度拡充は当面ないということでお答えしたとおりなんですけれども、ただし、隊員の今後の増員ということは地域の状況を見ながら、あるいはまた4名の隊員の活動状況を振り返りながら、増員ということは頭の中では、もう当然考えているところであります。

といいますのは、今、半年のまだ活動経過の中でありますけれども、集落巡回、さらには広げて今度は集落維持、活性化に向けた活動ができればというふうにも考えておりますので、半年の活動も

振り返りながら、また新年度に向けての活動も十分考えていきたいというふうに考えております。よって、隊員の任務の追加、変更等も今後もあり得るということで、制度を柔軟な対応をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

隊員の増強も図る答弁もございました。活性化も含めて地域づくりプラン、地域担当職員もやっぱり一生懸命やっていたいでいるんですね。だけど違うみまもり隊も4名の方々、違うところへ行ってるんでしょうけど、やっぱりそれも入ってもらってやってもらう必要があると思うんですね。車も用意して、十分あるでしょう。やっぱりただ行事に参加する、高齢者を巡回して、ただ「こんにちは」「さようなら」じゃなくて、そういう本当に把握したら何ができるかというので、私は対応できると思うんです。6カ月もたってるんですから。それをふやすということなんなら、6地区やっていってくださいよ。そういう方法もあるんでないでしょうか。それか、今、4名も外部人材してるんでしょうけど、全国から公募してくださいよ、いい方を。そこに定住させて、住ませて、そういう対応も図れるんじゃないでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり今、みまもり隊につきましては冬期間の市民生活、非常に困難を来したということの中で、設置した大きな目的もあるわけございまして、そういったところを経験しながらどう対応できるのか。それによって拡充も考えていかなければいけないと私は思っておりますので、今すぐここで、来年から何人ふやすということは、なかなか私はできかねると思っております。やはり1年動いてみて、そしてどういう形でできるのかというの、また検討させていただきたいと思うわけでありまして。

決して、我々はこれを取り組んで、それでもって終わりということではございません。やはりどのように活用できるのかも含めていきたいと思っております。地域担当制も連携しながら、それも少し能力アップも考えていかなければいけないと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

12月1日に、根知の未来を考える公民館大会が開かれて、明治大学の農学部の先生とかで、根知地区における広域的な地域マネジメントの必要性と可能性とか、すばらしいことをやってるんですよね。本当に大学との連携もございまして、小滝地区でも新潟大学とやっていますよね。すばらしいことをやってるんですけど、これここにおられる方、根知地区のをお聞きになったか、それを

聞いてれば、ちょっとお聞かせ願いたいなと、こう思ってるんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

小滝地区と根知地区におきます、ある意味で大学との連携ということになると思っております。

小滝地区のほうは新潟大学とのダブルホームという形で、もうここ何年か、三、四年続いているものでありますし、根知地区につきましては、1日の日は私は出席しませんでしたので、その日の話の内容については、今、お話することはできないわけでありますけども、今、明治大学だけでなくほかの大学からも、ある意味で根知地区が、今、中山間地の1つの例としてエリア、広がりとか世帯数とかの部分からも、1つのモデル的な研究材料にという部分も大学側では考えております。そういった部分につきましては行政のほうも、逆に積極的にタイアップしていく中で、今の研究成果がまとめられるということをご期待したいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

そこなんですよ。行政とタイアップして研究成果、やっぱり素晴らしいことをやってるんですね。それで地域コミュニティも地域コミュニティ計画を立てながら、いろいろなこともやってますし、地域づくりプラン、ちょっと同じのになるかどうかわかりませんが、そこもやっていかんならん。大学との、公民館が主なんですけど、やっぱり村単位なんですよ、昔の中継所と一緒に、村なんですよ。村、地区をどう考えていくか、本当に公民館のことだけではないと思うんですわ。

私はやっぱりそこには待遇改善も含めて、やっぱりある程度のところを、素晴らしいことをやっているんで、そっちも見学、地元も見学、教えてもらわんならんこともございますし、また、全国的に先進地も含めて、私は必要だと思うんですが、能生には能生事務所、青海には青海事務所がありますが、本庁にはそういうのがありませんけど、職員も行ったりに来たりできると思うんですわ。地元の方は帰るんですから、行事におりながらいろいろなことで地域を考えていただいて、本当の地域づくりプランも職員の方も一緒になって、私は考えるべきだと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく私もそのとおりであるわけでありまして、公民館は公民館、地域振興は地域振興ということではないと思っております。特に、その辺をこれからの公民館体制の中で、地域コミュニティも一体となってやれる方向にもっていきたいわけでありますので、やっとな人は違うんだけど、看板が違うということのないようにしていきたい。

当然そういう中においては、これからやはり高齢化社会、少子化の中において人口も減ってくるわけですので、やはり餅屋は餅屋、そしてまた、あらゆる能力や経験をその中で生かしていただきたい。そうすることが、私は地域の発見や地域公民館の活動につながるのだろうと思っております。

そういう方向にもっていく中においてはよその組織、例えば今、ご指摘の大学なんかも、やはり1つの起爆薬になるんだろうと思っておりますし、また、新しい1つの知識なりも加わって、いいものになるんだろうと思うわけでありますので、できるだけそういうものが、やはり連携をとれるものであれば、とっていききたいわけであります。そういう中で、自主的な地域づくりに波及できる部分で、公民館のバージョンアップという形にさせていただきたいわけであります。

特に、今、根知のお話なんですが、これは私も本当に出席してなくて、その説明はできませんが、毎年12月の第1日曜日は、公民館大会ということで文化的な活動、午前中は講演会、午後は交流会という形で進めてる中での取り組みであったと思っております。

そのようにいろんな地域がいろんな工夫をしながら、情報収集しながら、地域のまちづくりをやっていたと捉えてるわけでございますので、そういった中で絞り込んできた対応の中において、行政が何を連携とっていいのか、何を支援できるのかということをついていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

私もそこだと思っんですよ。本当に12月1日、公民館大会やってる、後で見たんで、やっぱり「広報おしらせばん」ぐらいに出して、いいことやとるんだから出してくださいよ、出てないと思っんですわ。公民館報、根知地区だけ、いいことはいいことを出していただきたいと思いますが。

その辺を含めて、連合区長会、市議員も行政も一緒になって先進地視察、ぜひやっていただきたいと思っんだけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

先ほどお答えしたように、1つの方向性をどこでもいいということで、やはり私はうまくいけばいい、うまくいかんかったら、それは確かに見識を高めるためには、自分たちの目的にそぐわないではないだろうと思うわけですが、よりやはり効率のいい研修をしていただくためには、目的を絞り込んでいくような形の中で、地域でやはりその辺をおまとめになったり、例えば地域づくりプランをやるという形の中で、自分たちはどのようなものを視察をしたいというような方向にまとめれば、その辺はご支援できるものもあろうかと思うわけであります。

そのようなことで我々といたしましても、一体となつてつくり上げていかなくてはいけないわけでございますので、先ほど言いましたように自助・共助・公助という、我々はこれからのいい1つのネットをつくっていく中で、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう形でもありますし、チーム系魚川だと思うんですわ。各地域、21地区がすばらしいことをやれば、チーム系魚川も本当にチームワークになると思うんで、ぜひお願いしたいと思いますし。

次、その地域づくりプランの中で浦本地区がアンケートをとって、まだ皆さんが把握しとるかどうかが、いっとるかどうかわかりませんが、過去にやったら浦本小学校の統合、他校との統合のアンケートをとったら、統合賛成19%、統合もやむを得ない58%、統合反対が17%で、ほとんど8割近くが、統合やむなしの方向が出たんですよ。今、浦本が何人ですか、二十四、五人ですか、今、上早川小学校が全校で9名、市振が14名ですか、その辺でやっぱり教育委員会の方針を出すべきだと思うんですよ。こういうアンケートの前に、現場に入ってPTAの方、いろいろな自治会の方、役員の方も入って、どうなると、キャッチボールが必要なんではないでしょうか。それいかがですか。どういう理念のもとで、今後進めるつもりなんではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

学校の統廃合につきましては、庁内委員会で平成23年だと思っております、検討いたしております。

その中では学校の適正規模、これは国の示す適正規模もございます。それに基づいて適正規模の学校にするのが望ましいということの中で、それ以下、適正規模でない学校には複式学級の解消とか、今後それについては検討していくべきだという、はっきりとした結論ではなくて、今後、またそれについて検討していくというところで終わってます。

つきましては、ことし、子ども・子育て会議というのを設置しております。この中で、外部委員会、これは外部委員会になるわけですが、この中で検討の意見を聞きまして、また市としてこの方針を決めたいということがございます。ただ、この学校統合につきましては、非常に難しい問題と申しますか、地域の思いとか考え方が非常に重要でございますので、それらを十分加味した中で、今後、その方針を出していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足させていただきます。

特に、小学校の統廃合につきましては、地元の意向というのを今までずっと尊重させていただいてまいりました。そういう中において、やはりそういった地元との連携の中で、これもさせていただきたいと思うわけでありまして、急にぼんとアンケートをとってという形は、非常に逆にはあり

がたい部分でもあるのかもしれませんが、その辺を我々も連携をしながら、じゃあ地域の小学校はどうあるべきかというところも入っていきたいわけですが、最初から行政の小学校の統合ありきという形にはしていきたくない。地域の皆様方と、また、PTAや保護者の皆さんと連携をとって、方向性を出していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

いや、アンケートをとったら、すぐやれということではないんです。その事前に、アンケートをとる前に、やっぱりキャッチボールしながら、どう考えとるかを含めて現場に入って、どうやっていったらいいんか、やっぱり。

統計で出とるように、本当に子どもだと思っんですよ。子どもの社会性、それと人間関係の育成問題、それを親が不安、葛藤してるんですよ。上早川小学校だって全校で9名ですか、今の浦本小学校25名、親が葛藤してるんですよ。小学校がなくなれば地域がだめになると、それは地域の人は言われますけど、やっぱりこれ出てきたというのは本音じゃないですか、ある程度。アンケートは怖いところもありますが、8割がそういう形になってきとると思う。ある程度、今度はキャッチボールしてくださいよ。これからですから、そう出たんですから、やっぱりそれをどんどんどん自治協議会と浦本の方々、上早川の方々、市振の方々とかどんどん入って、だめならだめでいいですよ。やっぱり心のキャッチボールが必要じゃないでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

議員おっしゃるとおりだと思います。

以前に、ある地区へこのことのお話にお伺いした際には、まだそういう機運じゃなかったために、今後はその話をしてくれるなということもありました。その後、またお考えも変わってきておりますので、議員おっしゃられたみたいな形でまた地区の皆さんとも、お話をさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

本当に正式にいつ何日、集まってくれとかじゃなく、やっぱり水面下も含めて、そういう対応も必要なんでないかなと、こう思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それで先ほどもございましたが、重要案件も含めて総合計画の実施計画、今、立てられとると思うんですが、いつ議員に配付になるのか、その辺、新施策があるのか、やっぱりそれは事前に議員とか住民に、重要な案件ではなくても示してほしいなど、12月前ぐらいに、私はそう思ってるんですが、それできなければシンポジウム方式、そういう形は必要だと思っんですが、いかがでしょ

うか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

実施計画につきましては、毎年、ローリングをして、見直しをしているものであります。

今回、特に合併10年を迎えるということで、今後の計画財政の観点からも長期財政見直しをつくって、あわせて実施計画の事業も詰めていきたいということで、作業が非常に時間を要しているのもことしの特徴だというふうに思っています。

しかしながら議員のおっしゃいますように、できるだけ早くご希望でありますけれども、今の段階では、これまでも12月の議会の最終日まで、ぎりぎり間に合うかというようなスケジュールで進めてきております。ことしもまだ確定ではありませんけれども、できれば議会内に皆さんにお配りできるぐらいのものにしていきたいということで、今鋭意、最終調整を行っている段階でありますので、その点につきましては、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

本当は12月議会前にお示しいただきたいなと。考え方だけでいいと思うんですよ。ある程度、新年度予算になれば1月終わりぐらいまでになるんですか、市長の考えだと思うんですよ。こういうことをやりたい、案でもいいと思うんですよ。国、県とかいろいろございますでしょうけど、やっぱりチーム系魚川もありますし、その辺の感覚でぜひやっていただきたいなと思っておるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういうものであれば簡単には出せると思うんですが、我々はやはりこれからの財政運営なり、また長期展望や、また我々の今進めている事業に対して、やはり新年度の事業にどうやってつなげていくかというところを考えますと、我々の作業の中で必要な実施計画という捉え方をさせていただいたとるわけでございますので、その辺をご理解をいただいて、ですから大体同じ時期に提出をさせていただいておるという形で、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

実施計画の作業は実質的には、もう8月からスタートをしてしております。私も担当課としましては、

案というものの段階で皆さんにお示しするというのは、非常に難しいというふうに考えております。

といいますのは、やはり財政的な裏づけをもって、それでもまだ案でありますけれども、そういった中で時間がかかっておりますけれども、策定作業を逐次、進めているという状況でありますので、予算よりも、もちろん早く皆さんに開示できるということになりますけれども、その点については一生懸命やりたいと思いますけれども、スケジュールについては、その点、ご理解をいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

その辺なんですよ。12月19日に配られても、一般質問や常任委員会で議論する場が少ないんですよ。3月、当初予算がぼんと出てくる、その前にやりたいんですよ。市民もそれを期待していると思うんです。それならシンポジウム方式、システム、それいかがですか。やっぱりその思い、来年度どうなるんかって、新幹線あと1年と4カ月ですか、そうやってきて、どういうビジョンを持ってあるんか、思い、それ確定でないでいいと思うんですよ、案の案でもいい。こういうとこ何かをやりたいという、やっぱり思い。何か聞きたいと思うんですが、ずっと前から思ってたことを言ったんですけど、やっぱりそれが重要案件だけでなく、そういう思いだけでも12月議会前までに聞きたいなと。今、もう来年になるでしょうけれど、それは必要ではないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

実施計画は3年ローリングであります。ぽっと出るわけではございません。ですから去年のやつにもつながっているわけですし、ですからそういうものを見る中で、例えばこれからの3年のやつはどうなんだという中では、私は議員の皆様方もご判断いただける部分が、その中に大きくあるんでなかるうかと思う次第であります。

私は新年度の予算の考え方はどうなのかというときには、今、大枠の中では、予算編成の中で大枠は出せるわけですが、実施計画であるわけですので、その辺だとか、やっぱり国、県の動向を見ながらつくり上げていくわけですので、ぜひとも今、課長が言いましたように、我々は途中でそれを変更するわけにはいきませんので、しっかりしたものをつくりながら、それを見ながら新年度予算の中に入れていきたいという考えでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

それは総合計画並びに後期計画、実施計画、ローリングはわかりますが、今回は26年、27年、

28年、かなりの今度、新幹線が27年に開通します。その後にも含まれてくるんです。それで長期財政計画もありますでしょうけど、それはやっぱり単年も含めて、さっきの牛久市の住民調査でないんでしょうけど、単年もある程度は必要ではないかなと、こう思っているんですが、思いをやっぱりそういう形で伝えてほしいなと、市民にも、そういうことは12月前にできないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

先ほど市長も答弁いたしておりますし、企画財政課長もお話し申し上げておりますけれども、全体的な計画としては、糸魚川市の総合計画に基づきまして、市の施策の方針を定めております。

その中で後期基本計画ということで、23年度から28年度の計画、さらには市長3期目の公約の実現に向けた施策の運営、それらを含めまして26年度の新年度予算を策定する1つの方向の目安として実施計画、3年間のローリング、今度は26年、27年、28年という形のをあわせてまいります。1つの26年度の新年度予算に向けた施策の展開の方向づけ、方針というような形で定めております。

したがって、それがないと全く市のビジョン、方針がないというふうにおっしゃっておられるような感じを受けますけれども、そんなことはございませんので、総合計画、基本計画、昨年度の実施計画、これらを基本にして、私、前段に申し上げたような、その後の情勢の変化、市長の3期目の公約、これらを実現するための方向ということでありますので、その辺を十分ご理解をいただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

実施計画、総合計画でなくて、新年度予算に対してどういう考えなんですか。いつ議員や市民に発表できるんですか。それは3月予算の前というのはできないんでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

新年度予算、例年の大体スケジュールからいきますと、2月の中旬から下旬にかけてまして、新年度予算の市長の記者発表という形で公に出ることになります。もちろん、その後に3月定例市議会ということになりまして、そこではもちろん予算書として上がっていくわけでありまして、ことしもおおむね、そのような日程になっていくだろうというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

例年そういうんです。そうではなく決定する前に、3月議会、予算前に、決定する前に、いろいろなワークショップや、そういうシンポジウムシステムをとれないかと。

市長は4月に受かって、ある程度、形で思い、今度はチーム糸魚川も18日に設立されて、今度はどんどんどんどん出てくると思うんですが、3月予算、決まった、私はこれ冊子にきたんじゃない、私はその前にやっぱりある程度の思いとか、それは必要だと思うんですよ。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

私は、それが議会でなかろうかと思うわけであります。

また、今まで前段からも渡辺議員のご質問にもありましたように、地域の皆様方との懇談、それが私は1年間のいろんな皆様方のご意見、そしてまた議会でのご提言、それが新年度に反映していくものだと思っておるわけでありまして、私はその1年間の中、全てが私はワークショップであり、また、アンケートであり、そしてまたご意見だろうと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

そこは後は突っ込みませんが角度を変えて、チーム糸魚川。これもNPOのまちづくりサポートーズが緊急提案、成果が見えるチーム糸魚川の戦略づくり、チーム糸魚川、各種団体の情報共有を目指すだけの懇談機能ではなく、協働して、みんなが1つの目標に向かっていく、成果が見えるブルドーザーのようなチーム糸魚川の編成を、今こそ名実ともに全市民一丸となった、気概の見える組織づくりが必要。

私は18日に、どういう事業計画が出るかわかりませんが、1年間のトータルしたのを、今、予算化すると言うんだから、チーム糸魚川の事業計画も含めて、すばらしいものが18日に期待しておりますが、どういうものが出されるんですか、もう決まってるでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

18日に設立総会が行われるわけであります。

先ほどの冒頭のご答弁でもお答えさせていただきましたが、新たな事業を展開しようということではなくて、今、いろんな事業とか活動が行われておるわけでありまして。いろいろ成果が出てくるわけですが、さらに、それを上乗せをしていかななくてはいけないときだろうと思っております。それには、やはり糸魚川市民のチームワークが必要になってくると私は考えておるわけで

ございまして、そのチームワークをしっかりとすることによって、より評価を高めていきたいという形を捉える中においては、どうすればチームワークが高まるか、そういった活動をしていきたいということで、今、皆さんと一緒に進めさせていただいております。

でありますから、この組織を見ていただいて、何か我々が入ってないぞということではなくて、市民が押しなべてどこかで、その中の枠の中にいる。そういった人たちの代表者が集まっていたら、ご相談をさせていただいたりご意見を賜り、そして進めてまいって、今、やっと設立総会ができるわけでございます。市民全員が、その活動に参画できるような活動をしながら一体感が持てる、やはり方向性にいきたいということで進めさせていただいております。

また、その中で進めることによって、新たなまた1つの活動をしたり、事業をしたりということになれば、またそれはそれだと思んですが、まずはチームワークづくりを主体にスタートをさせていただきたいということで、今進めさせていただいております。市民お一人お一人が取り組めるような活動になりたいということで、今、ご提案をしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

18日、期待しております。

1回目の答弁で、チームワークや愛着を持てるようなチーム糸魚川と。私はその中で、本当は18日に何々プロジェクト3つか4つを挙げて、各団体の人たちが前回やられた地酒の委員会と一緒に、それぞれ分かれて、どういうプロジェクトチームをやって何かを、経済なら経済、少子高齢化なら高齢化、行財政改革なら改革、そういうプロジェクト案を出しといて、どうやっていけばいいとか、ある程度、1つまとめて呼びかけて、ぼん、チームワークをつくってくださいだけでは、私は違うと思うんですが、それは市長の考えですので、ある程度の絞っていった形は後だと言ってるんですが、その辺のやっぱりスケジュールも含めて、皆さんにご提案になると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、このチーム糸魚川を設立するときにもご指摘いただきました。今度何やるんだ、何の事業をやるんだ、何の活動をするんだ。もうこれ以上イベントしても疲労感がたまって、集まりは同じような人が集まってやるとるじゃないか。そういうようなご指摘もいただきました。

でありますから新たな展開をするのではなくて、今ある活動が、いかにより評価が高まっていく、そういう活動にもっていききたいということでございまして、平成25年度は今言われるように、市民皆さんと一緒にいただけるようなスタートを切らせていただいて、25年はその事務的なことをしながら、26年度に本格的に立ち上がっていけるような形にもっていききたいと思ってる次第であります。

設立総会前でございますので、なかなか議会にも、その具体的なものでやりとりというのはちょっと。私だけでやっとするわけではございませんので、市民の皆様方と、今回、特に大事なものはやはり上意下達の方式じゃないと。みんなでワークショップみたいなこともやりました、みんなでご意見を賜る中で進めてきて、そういう方向に固まってきたわけでございますので、そのときに提案をさせていただいて、お決めいただいたものに対して対応していきたいという方向で、今進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

市長の考えはわかりますが、やっぱり全国の、いや、世界を見て糸魚川をどうするか。世界ジオパークなんだから、糸魚川をどうやって進めていくかというのは、やっぱりある程度の、糸魚川、同じような地域をこう提案する、3つばかりでもいいですわ、情報提供、それやっぱり必要だと思うんですわ。それをやりながらチーム糸魚川をどうするんですかでない、地域づくりプランも一緒でしょうけど、うちの下早川なら下早川、こういうのもありますよ、やっぱりそれはある程度、市の職員、いろいろホームページや先進地へ行っとるところを参考にして、どうやっていけばいい、それと一緒にだと思っんですよ。個々の積み上げも含めてチーム糸魚川になると思うんですが、その辺やっていただきたいと思っんですし。

今、人口減少対策、それは市内全部でやっていただきたいと思っんです、若者ハッピースマイルプロジェクトぐらい、ある程度やっていただく。若者、かなり定着もしてます。けどまだ出てます。そうではなく、来ていただくのをどんどんどんどんふやしていくような、そういうプロジェクトも含めていかないと、子ども、統合や何とかでなく、もっとふやすぐらいできるような、そういうまちづくりちゃできんのでしょうか。それがチーム糸魚川だと思っんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

チーム糸魚川の中でできなかつたら、全てできないということではございません。今やってることは、しっかり私は進めていかなくちゃいけないことは、進めていかなくちゃいけないと思っんです。

ジオパーク活動も全くそのとおりであります。今、ですから日本全体にジオパークの普及啓発をしながら、糸魚川がどのように上がっていくのか、どのように周知されていくのかというところが、やっぱり一番大事でございますので、それもしっかりやらなくちゃいけない。そして、ただ日本だけではなくてアジアだとか、また、世界にどのように発信していかなくちゃいけないかということで取り組んでおるわけでございますし、ただ、これは地域振興だけではございません。教育の場で、どのように生かしていくのか。教育で生かすことが、やはり持続可能な方向性にいきますし、子どもたちが、やはりふるさとに愛着と誇りを持てるわけであります。

そういったことで、これはもう糸魚川の1つの情報発信であり、全国も同じようなところで取り組み、今、全国では168の自治体、32ジオパークの全体で、今、取り組まさせていただいておるわけでございますので、ただ、それだけでは、まだ足りないわけでございますので、それを拡大していく方向でありますし、それと今ほど言いましたように、これからも続くわけでございますが、少子化・高齢化の中で、地域をどのように支えていくのか。それも待たないでであるわけでありまので、そういったところも今スタートをしながら、また、拡充もしなくちゃいけないというところで、今進めさせていただいてるわけございまして、チーム糸魚川の活動を今しないから、それが見えないから、何もできないではないかということでは私はないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

総文でもありましたが移住支援、やっぱり若者のコミュニティの発生を促して人口増加を図るとか、海外の姉妹都市をつくろう、ものづくり大学の姉妹都市提携とか、いろいろな形でやっていただきたいと思えます。

以上で、一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

14時20分まで暫時休憩します。

午後2時10分 休憩

午後2時20分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。〔9番 伊藤文博君登壇〕

9番（伊藤文博君）

清生クラブ、伊藤文博です。

本日は、チーム糸魚川の取り組みについてと、生活弱者対策、高齢者ニーズ調査への対応についての2点について質問いたします。

1、チーム糸魚川の取り組みについて伺います。

米田市長は「チーム糸魚川」を公約とし、立ち上げを宣言して最初の募集が10月30日締め切りで行われました。

今後も随時募集するというのですが、現在の応募状況と今後の進め方について伺います。

- (1) 現在の応募状況と今後の募集予定はどうなっていますか。
- (2) 広報及びホームページでは「発起人予定団体」となっていますが、各団体との協議状況はいかがですか。
- (3) チーム糸魚川についてのその他の関係団体との協議は十分に行われたのか、そして理解は進んでいるのでしょうか。
- (4) 今後の進め方としてどのように考えていますか。
- (5) チーム糸魚川の拠点はどこに置き、どのように活性化を図るのでしょうか。
- (6) 庁内の「チーム糸魚川」として、庁内の横の連携を深めなければならない。その上で市民協働による活性化を図る必要がありますが、具体的にどのように考えていますか。

2、生活弱者対策、高齢者ニーズ調査への対応について伺います。

市内随所で、生活弱者、とりわけ買い物弱者対策の早急な実行を望む声を多く聞きます。市では、高齢者ニーズ調査を実施して生活面全体の困りごとを調査した上で対策を講ずる方針であります。毎日の生活に不自由している状況に対して早急な対策が必要とされています。

- (1) 高齢者ニーズ調査の結果と分析はどうなっていますか。
- (2) できることを早急に実施しながら、継続的改善を繰り返して全体の仕組みを構築していく必要があると考えますが、いかがでしょうか。
- (3) 今後の取組方針はどのようになっていますか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、16団体の参加をいただいております。今後も引き続き、募集してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、発起人予定団体の皆様から設立準備会のメンバーとして参画をいただき、9月以降3回協議を重ねております。皆さんとともに考える過程が大切であり、その作業がチームワークを高めることにもつながるものと考えております。

3点目につきましては、今月に入り参加希望の団体が幾つかありますので、今後、働きかけをしてまいります。

4点目につきましては、12月18日に設立総会を予定いたしておおり、その後は、今年度の活動計画に基づいて活動してまいります。当面は、糸魚川市全体のチームワークを高める活動と、糸魚川を知り、糸魚川に愛着を持つ活動を実施してまいりたいと考えております。

5点目につきましては、事務所を市役所に置き、発起人団体の皆さんとともにチーム糸魚川として、力を発揮できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

6点目につきましては、これまでも部課長会議及び関係課協議、また会議で、周知を図っており、今後は職員を対象とした研修を通じて、庁内の連携強化を図ってまいります。

2番目の1点目につきましては、困り事の多くは外出や買い物、雪対策であり、親族や近隣の方から何らかの生活支援を受けているという回答が多くありました。

2点目につきましては、必要な支援策の検討を指示いたしてるところであり、行政としてできることから実施していきたいと考えております。

3点目につきましては、高齢者が住みなれた地域で自立した生活を送れるよう、地域住民も参加する中で、課題解決に取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくようお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

まず、発起人予定団体、これがこの「おしらせばん」、それからホームページでも同じ記述なんです。これがもう既に16あるんですね、市や県も入れて、今、16団体というお答えでしたが、また今月に入って幾つか参加の希望があると。この辺あれでしょうか、この16団体と発起人予定団体の16団体は、別に16団体あるということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

広報に書かれた16団体と、現在の16団体、発起人団体は同一であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ということは、広報で募集をしたのに対しての新たな申し込みは、なかったということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

そのとおりであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そういうことであれば、なおさらこれからの質問の意義も出てくると思うんですけど、やはり市長が公約でチーム糸魚川ということ提唱して、実際に踏み切っていく段階で、今現在、糸魚川市で地域づくりにかかわっている団体等の協議により、より理解を深めた中でチーム糸魚川という機

運を高めていくという段階が、どうも不足をしていたんじゃないかというふうに思われるわけですね。

まず、この発起人予定団体、16団体がありますが、それは市も県も入ってるわけですが、これはどのように協議が行われてきたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

これまでの協議の過程でのご質問だというふうに思っております。

会議的には設立準備会ということで、これらの団体から事務局長レベルの皆さんから参画をいただいて、チーム系魚川の設立に向けた個別の活動等もご審議をいただいてきました。

その前提とすれば各16団体、チーム系魚川に向けて具体的な活動はということで、具体的な活動も提案いただきながら、それらの内容を構成団体で協議する中で、取り組みの方向性を決めてきたというのが、これまでの大まかな協議内容であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

チーム系魚川というのは、非常にいい発想だと思うんですよ。これを本当に効果的に系魚川のために生かしていくために、どうしようかという視点で質問していますので、これまでの取り組みで不十分なところがあれば、これからどうやって補うかという発想で答えてもらいたいと思うんですけど、この16団体の構成メンバーへの周知というのが、そのメンバーですよ、その中の末端組織までの周知というのが図られていたかどうかと。それぞれの団体の中で、チーム系魚川という考え方が浸透していたかどうか、ここが大事だと思うんですね。

メンバーを見ると本当に重立った、例えば区分の中の一番上の団体というのは全部入っているんですよ。ところが実際に活動していくのは、もうその下の人たちで、市長が言うようにチームワーク、愛着ということになると、なおさら大勢の人にチーム系魚川の理念を理解していただかなきゃいけない。そこが大切である。そうしないと、そのチーム系魚川の発想、理念のところで、その根本にあるところがお題目に終わって、生かされていないということになっていきますが、そこを補う取り組みが、これから必要になります。どのように取り組んでいきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今ほどありました発起人団体、16団体でございますけれども、それぞれの16団体の中で十分その構成メンバーにチーム系魚川の考え方、あるいは理念が浸透してるかというところになると、まだまだのところがあるというふうに思っております。

それらも今後のチーム系魚川の活動の中を通じて、そういう構成団体のそれぞれのメンバーのところに、チーム系魚川として1つの目的に向かって、それぞれの団体が自主的に活動されておる、そういう取り組みを、お互いに連携をして進めていこうではないかという考えを広げていく、そういう取り組みは、これからもまだまだ図っていかねばならないと思いますし、それがチーム系魚川の求める姿になっていくというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

その考え方は、そのとおりなんです。それを実際のものにするために、どう取り組むのかということが大事なんですね。

先ほど五十嵐議員への答弁の中で、今ある活動に対する評価が高まるようにということは、1つの団体が実施するイベントなりの行事に対して、参加者の理解が進んでたくさん参加して行って、枝分かれてしていくような活動も、生んでいくというようなことになっていくんだと思うんですね。

繰り返しますが、各団体のトップと話していても、その中で浸透するには時間がかかるんですよ。多分、その人たちは自分の団体といっても自分がわかっていて、会議の中で多少話しても一度伝えるだけで終わってしまう。それを浸透させるのは、やはり市長の政策ですから、やはりここの熱意だと思っんですよね。

これまでの不足は、これからでも取り返せる。これはこれからの取り組みが、非常に大事だということなんです。関係者間のコミュニケーションを充実して、意思の疎通を図っていかねばいけない。そのために、どういう取り組みをするかですよ。方向性でもいいですね。できるだけ具体的にお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。（企画財政課長 斉藤隆一君登壇）

企画財政課長（斉藤隆一君）

伊藤議員が言われますように、やはりトップだけで、今、チーム系魚川をつくるという考えではもちろんありませんで、やはりどこまで三角形の底辺が広がっていきけるかというのが、このチーム系魚川の鍵になるんだらうというふうに思っています。

まだ設立総会の前でありますので、具体的な部分については、ちょっとお話できないところもありますけれども、浸透させるという意味においては情報の共有というところが、どのレベルまでおろしていきけるか。また、団体間の情報交換の重要性も当然あると思っています。そこへもってきて各団体間、チームワークを構成する団体間同士の事業連携というのが、可能になっていくんだらうというふうに思っています。一挙に全て底辺まで下げるとするのは、確かに難しいことでもありますけれども、底辺を広げるための活動もこの中で、当然、この中で行っていかねばならない、そういうふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そういうふうに進めていくときに、やっぱりチームというからにはその拠点が必要である。先ほど市役所という話がありましたけど、チームのコミュニケーション、これも大事だという話がありましたよね。コミュニケーションは会議のような、かた苦しいところで交わされるものではなくて、そういうところじゃないところで、もうざっくばらんに交わされたコミュニケーションが会議のような場所で、正式な決定となっていくという過程を踏まなきゃいけない。ところが、多くはそこがないんですね、その前段のところがない。そのために拠点が必要だろうということを言ってますんで、そういうふうに理解をしてもらいたいと思いますね。

日常的なコミュニケーションが非常に重要であって、そのことを図ることができれば、チーム系魚川の発想が実効性のある、効果ある取り組みとなって、系魚川市の発展に寄与してくるということになると思うんですよ。だからそのコミュニケーションの場ということについて、拠点ということも絡めてどう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

伊藤議員おっしゃるように、チームワークを高めていくためには、情報の共有が非常に大事だと思っております。

その1つの手法としてはおっしゃるとおり、コミュニケーションをよくするということが大事でございます。コミュニケーションをとる手法といたしましては、いろんな手法があると思っておりますけれども、例えば、今の時代でございますので直接会ってお話をする、あるいは、電子媒体を使ってお互いに情報をやりとりする。あるいは、日常の率直な意見の交換ができるような場所を設ける。いろいろな手段の中で、お互いの活動内容、あるいは意見、それらを出し合いながら、お互いの活動を認め合う中で連携をとってチームワークを高め、1つの目標に向かっていくと、そういうことでございます。コミュニケーションを高める手法については、今、私、幾つか申し上げましたけれども、よりまた皆さんのチームの中の実情、お考えを踏まえながら、いろんな手段の充実を図っていくということを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そういういろんな手段を複合的に使っていくのが、今の時代ですよ。どこでもそういうことをしてます。ですから手法を限定すると、なかなか実際のコミュニケーションがとれないということになりますし、電子媒体なんていうのは、幾らでもそこで情報のやりとりができるんですけども、これはやっぱり限界があるんです。相手の都合を構わずいろいろやれると、時間の調整も要らないという利便性もある。ところが、顔を合わせて話す以上のものはないという。そういうところで、

あらゆる手段が総合的に講じられて、チーム系魚川のコミュニケーションがしっかりとられていく。

じゃあ直接会って話をする場として、チーム系魚川のたまり場という発想の中で、先ほど日常の意見交換とありましたが、そういう場を、そういう環境を整えてやる。でも、これは初めから場所を設定してやるという、今、部長が答えたように、その構成メンバーの意見を踏まえながら、徐々に形づくられていくというようなことがあればいいと思います。最初は、金をかけずにいきます。

例えば系魚川市役所だといってもほかのところで、商工会議所のあるスペースが、非常にそういう場として生かされていくかもしれなし、ヒスイ王国館の中になっていくかもしれない。ただ、初めからそういう意思を持つてることが重要である、そんなふうにつくられていったらいいと思うんですよね。このような考え方についてどうでしょうか。さっき予算の話もあったけど、どこかで予算をかけるということも必要ですよね、かける価値があるということが見出されてからでいいと思うんです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

伊藤議員のご提案の、そういう場所を幾つも設けながらということは、非常に有益な手法だと思っております。そういうご提案も含めながら、私どももコミュニケーションの場づくりを考えてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

きょう、このチーム系魚川の質問のかなめは、チーム系魚川自体のコミュニケーションの問題と、あとは市内のチーム系魚川です。

例えば例を挙げて言えば、北アルプス日本海広域観光連携会議の枠の中での連携についても、各課がいろんな事業について、別々の担当でやってますよね。例えば、この直近ですと、これえ～ねか博、それから系魚川橋上駅舎供用開始など、本当に近接したところで別々のイベントがあって、それは日が近接したところです。それも北アルプス日本海広域観光連携会議との連携をとりたいと、それぞれが模索してるわけです。ところが、相手はそんなにしょっちゅう来れないというようなことの中で、いろいろあるだろうと思うんですけど、そういうところでも、やはり市内の横の連携がとれていないと、調整もとれない中で、より有効な交流ができないということになってきますよね。この辺を市内のチーム系魚川、どういうふうに考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり市内のチーム系魚川が、これは絶対必要だと捉えているのは、このたび、また新たな1つ

の私の約束の中に入れてさせていただいた職員の意識改革もその一環であるわけでありまして、今までは自分の与えられた職場、それだけではないと言いながら、なかなかその域を出られなかった。やはりそれもチームワークのなさが、やっぱり出てくるんでないか。より高めるためには、やはりそういった達成感をみんなで共有できるような活動をしながら、仲間意識が大事じゃないかなという部分を感じられるわけございまして、なるべく我々の規模の市の職員は、常に何度も言う、同じような取り組みは、一体になって取り組めるよというような方向にもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

この話を出せば、誰しもが重要であると言いますよね、どうでもいいと言う人はいないと思います。ただ、やはり庁内のチーム系魚川というのは、今までいろんな場面で言ってきた縦割り弊害の排除、横の連携強化にほかならないわけですよ。市長の公約でチーム系魚川と出たときに、やはり総務部の全体の企画調整をしていく部署は、あっ、これは庁内のチーム系魚川を先に整えなきゃ物にならんぞという意識が最初になきゃいけない。だからチーム系魚川を考えたときに、最初に庁内のチーム系魚川というのを、そういう視点で検討したことがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

当然、チームで仕事をしていくためには、横の連携というのは非常に大事でございます。

その中の1つの取り組みといたしまして、選挙の開票事務が非常にわかりやすい事例だということで、短い時間の中ですぐに成果を出して、みんなで協力し合って取り組まなければならないというようなことで、隣の人が何をやって、どういう仕事をやってるのかという、全体の流れを十分お互いにわかる中で取り組みをするというのが、開票作業のわかりやすい1つの事例でございます。

そういう取り組みをやりながら、庁内の横の連携を日常の業務の中でも、そういう視点で取り組みをしていくという考え方の中で、開票事務を早く開票するという作業の目標のもとに、取り組みをいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

それは、ほら、行政改革とかいうレベルの話ですよ。今、チーム系魚川というのは、ある部分では、その行革なんていうものを越えたものが出てこなければだめだ。僕が聞いているのは、要するに官民連携の中でチーム系魚川という発想で、系魚川市全体のチームワークを育てるといったときに、さあ、これは庁内のチームワークをひとつ見直してかからなければ、チーム系魚川は推進できんぞという観点で取り組んだかって聞いているんですよ。もし、それが無いのであれば、これからそれ

をやっていけばいいわけですから、だからその視点で、ものを考えていかなきゃいけないということに対しての認識を問うてるわけですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

前段、お話ししましたように、当然、庁内の横の連携がチームワークのもとでございます。そういう視点で取り組んでおりますけども、じゃあ十分かと言われるところについては、まだまだ十分でないというふうに認識しております。

そういう中でチーム系魚川の取り組みとあわせて、庁内の横の連携、チーム市役所という意味での取り組みを、これからもまだまだ進めていかなければならないというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

市内の団体にチーム系魚川の立ち上げ参加を求めて取り組んで進めていくと、当然、それぞれのいろいろな事業とかは市役所と絡んできます。それぞれの担当課と相談をしながら進めていくというのが非常に多いですよ、やっぱり。その度合いが重たかろうが軽かろうが、必ず何か連携がある。その中で、庁内のチーム系魚川というものがしっかりできていないと、当然、市民から見れば商工農林水産課も交流観光課も同じですよ、一緒。ところが、それぞれが別々のことをやってるときに、情報が全然今度市役所に、逆におりてこないというようなこともあるし、調整が図られていると思ったことが、図られていないということになってしまいますね。

やはりまず最初に、庁内のチーム系魚川を整えなければならない。これは並行作業でもいいんです。ただ、もう早い時期にやっていくんだぞという意識が必要だと思いますけど、これまでの縦割り弊害の排除といわれたのに取り組んできたけど、なかなかそこへ行き着かないという状況で、ずるずるいっても同じでしょう。これいつまでたってもできません。その考え方はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

そういう中では、相互に市役所全体の中での仕事、ほかの課がどういう仕事をしているかというのを、常々、意識を持ちながらやっていくということが大事でありまして、そういう視点を全職員が持っていけるような庁内での報告、連絡、相談、あるいはいろんな会議、日常の業務、そういう中で意識をするとともに、そういう日常のコミュニケーションを深めていくということ、少しでも今まで以上に、さらに意識を高めて行動に移していくということ、心がけていかなければならないと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そのとおりなんですよ、心がけなきゃいけない。でも、心がけなきゃいけないという考え方では、多分、進まないですね。それをじゃあ、具体的にどうしていくかという話になるんだと思うんですけど、先ほど情報の共有が非常に重要だという答弁がありました。

チーム系魚川という観念で情報を共有し、その情報を今度は見て、ちゃんと確認して、生かしていくという作業が必要になる。見なかったというミスを防ぐために、その見たかどうか、確認したかどうかということ、しっかりと確認できるような仕組みが必要だと。庁内のグループウェア、今、使っているものがあると思いますが、これで十分にできると思うから、これはいいですね。そこで横の連携のキーマンというのが必要になる。

今、チーム系魚川という取り組みに関してだけ言ってますので、それはほかのことにも生きていくと思いますが、庁内連携のキーマンが必要になる。これは要するにその人が必ず見て、指示を出すところは出していく。また、そのことの確認もするというキーマンが必要になる。そうしないと、本当の意味で横の連携がとれていかない。会議やなんかでやっていく、これはだめですよ、報告会なんかやったって何にもなりませんから、日常的な業務の中でやっていく。それは今ある部署の長という役職の中でやっていくんでなくて、新たにその役目の人を任命しないと、これは多分できないと思いますね、今までの業務で流されていってしまう。こういう考え方が必要だと思いますが、どうでしょうか。

+

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、やはり今までのような1つの行政の流れの中においては、見えない部分が結構あります。そういう中、今、これから横断的に何かしなくちゃいけないという形で捉えて、我々は職員に意識改革というものを挙げさせていただきました。

そのスタートは、今ほど具体的なものは何かといったときに選挙の開票事務。目標を定め、それに向かってどうすればいいのか。そして、その部署部署のリーダーを決めて、それがいろいろな問題解決に当たり、それで行動したと。そして終わって最後、結果が出たけれども、それに対して反省会をしたというような仕組みを今やって、そして、それと同じようなことが、我々の今までの行政課題の中にあるわけでありますので、それに向かっていけるように、またその後に各課長、同じ枠といいましょうか、事業に対しての枠で、同じように取り組める係長と面談をする中で、そういう問題なり課題というものを、また目標というひとつ目標値、具現化するものをつくりながら向かっていく方向を示唆しながら、今進めております。

今までそういったものがない中において、デジタルなり具現化するというのは難しいんですが、そういうのを極力、どうすればできるのかというのが、やっぱり一番大事だろうと。そういうものが

明確になれば、それに向かって対応できるんじゃないかなと思っております。今、そういうものができると、よりそういう行動も伴っていくのでないかなという対応をさせていただいております。2回ほど、今、そういう話をさせていただいているんですが、やはり年度内に、もう1度はやりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

役職者がその職責において、その担当部署全体を見ていくのは、これは当然のことなんですね。例えば各部長がいる、その上には副市長がいる。副市長が日常的にやっている業務ということと別に、このチーム系魚川という枠の中で、その全情報に目を通しながら、適切な連携を図るための手段を講じていくということができたらいということですね。

その情報の共有は、グループウエアをうまく仕組みづくりをすることで、かなりできていくと思います。でも、見ないんですよ。やっぱりそれを見て、ちゃんと確認して、次の手段を講じていくことが、誰かの職責として明らかになっていないと、日常の業務の中で、やっぱりおざなりになっていってしまう。だから明確にキーマンを定め、それが例えば総務部長になるか、企画財政課長になるか、それとも、その下の係長になるか、それはいいんですよ。この人が、その役割ですよということを明確にして、その人からの調整、指示には従って動いていくんだと。各担当課の課長、係長を含めて、協議をする中で進めていくというような仕組みが必要ではないかということですね。具体的に、このことについてお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

そういう組織内のキーマンという状況の中では、それぞれ部ごとには部長がおりまして、部の中の調整というのは、部長が調整役を果たしてまいります。さらに部を超えて全体的な調整ということになれば、副市長になると思いますし、副市長の補佐役という意味では、私とその任務を果たしていくことになると思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

だから何回も言いますが、縦割りの弊害排除と言われたときに、今言った仕組みでやっているんなら、完全に全部できてるわけじゃないですか。例えば商工農林水産課と交流観光課が別々に地域づくりや物産、促販みたいな誘客の仕事をしていたのが、かかわっている市民側から見たら、何にも情報もないなんていう状況がいっぱいある。それは例えば部長制で、それが全部できているんなら、産業部長が全部調整できてははずですよ。でも、そんなわけにいかないの、これは。そういうことを責めてるんじゃないんですよ。

だからそういうことをちゃんと今、現状を把握した中で、チーム系魚川を機能させるために、どうすればいいかということをお求めているんですよ、今。今までどおりでいいっていうんだったら、これはもう機能しないですね。そんなチーム系魚川だったら、もう絶対うまくいかないですよ。もうちょっとしっかりした現状を捉えた答弁をしてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

チーム系魚川というか、市役所ですとチーム市役所になります。組織的には市役所がありますので、あとは職員のチームワークをどうするかということでもありますけども、確かに情報を共有するという意味では、職員全員がきちんとそれぞれ情報を得るとというのが一番であります。そういったことで、これを誰がチェックするのか、キーマンということになりますけども、チーム系魚川のほうも、これから担当部局をきちんとします。それから、それと一緒にチーム市役所のほうも担当部局をきちんと決めて、そこできちんとしたキーマンを配置したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そうしてもらわないと、これまでと変わらないことになっちゃいますね。

やっぱり難しいことを言っていないんですよ。今までちょっと曖昧だったところをはっきりして、その人が必ず情報を確認して調整を図っていく、または、その最終確認をするということが求められていることですね。

先ほども言いましたが、情報共有の仕組みは庁内のグループウェアでできます。そして、これを活用してキーマンがいろいろ指示を出す中で、庁内の機能をフルに活用して生かしていく。でも、このことをちゃんと行われているかというチェックも、またやらなきゃいけないということになる、これは例えば内部監査でやるとか。また、各部署でいろいろ生じてきた、例えばこういう連絡のそごがありましたよと。他課でこういうことをやってるのを、調整してもらいたかったというようなことに対して、またボトムアップ的に改善を図っていくというような仕組みが必要になってくると思うんですね。

キーマンを決め、キーマンがきちっと仕事をしていく。その仕事を、また誰かがチェックしながら、どんどんどんどん継続的な改善を繰り返していくというような仕組みが、業務の流れの中で、誰かが忘れたら、失敗するのではなくてチェック機能が働いていくようなことにしていかなければ、それは簡単な仕組みでいいと思うんですね、そんな難しいことでなくて。そうやっていかないと、本当のチーム系魚川は機能しない。

何回も言いますが、チーム系魚川はすばらしい発想なんですよ。これを実効性のあるものにしていくために、どうするかということをおっしゃるわけですからね、後ろ向きな答弁は、もうやめてもらいたいんですね。現状でいいなんて言ったら、チーム系魚川は機能しないですよ。いかがでしょ

うか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

そういう中ではチームワークを高めていくための情報共有の仕組みを、試行錯誤で取り組んでいく必要があると思っておりますので、ご提案のような内容も含めて、やりながらまた考えるということでの取り組みをしてみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

次の質問でも多分出てくるんですけど、とりあえず民間が取り組んでいることを取りまとめて、1つの仕組みづくりをしてみたら、どんどん発展していくなんていうことだってあり得るわけですよ。だから、やはり最初に枠組みありきではない形で、進んでいかなければいけないという部分もあるんですね。今言うように、じゃあこれでやってみる、だめだったら変える、それでいいんですよ。ただ、大事なのは、それで変えていくという継続的改善に対する意識というのが、非常に重要になっているということですね。

また、市長の公約ですから、チーム糸魚川に関する市長からのマネジメントレビュー的なチェックも必要になっていくと思います。それはやはりマネジメントレビューというのは、ISOのある程度仕組みでもあるんですけど、これがいいのは日常業務ですと見ているはずなんですけど、マネジメントレビューってときをとると、今まで見通してきたところが見えてきたりするんですね。手法はそれに限って言いませんが、そういうふうにして市長のチェックというものも必要になってくると思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

このことを取り上げていこうという根底に、そういうものが見えてきたわけございまして、やはりこれを機能しないと、やはり我々糸魚川が、さらに発展を望めないなということで立ち上げさせていただいたわけございまして、今、ご指摘の点については、我々の気づきの点だろうと理解したわけございまして、そういったものを気づきながら、我々はまた組織体制に対して要請なり、また要望、または指示をしなくちゃいけないんだろうと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

高齢者ニーズのほうに移ります。

また考え方でちょっと重なるところがあるので、戻ることもあるかもしれませんが、高齢者ニーズ調査は9月30日が締め切りでした。現在の分析の進捗状況についてお願いします。それから、またこれからどう分析を進めて、対応策をつくり上げるまでどういう過程で進めていくのか、スケジュールも含めて、ありましたらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

アンケート終了後、できるだけ速やかに速報値を庁内に流しております。これは10月の後半であります。速報値についてはまだ、いわゆる自由意見欄という部分が反映されてない部分でありますけれども、関係各課において施策協議を行うという中では、自由意見欄も、もちろん大切なんですけれども、質問項目を分析したもので各課へ検討依頼がされている状況であります。

現在、実施計画もそうでありますけれども、新年度予算に向けた協議が進められておまして、特に、全庁という部分よりも、むしろ幾つかの関係課が出てまいりますので、担当課といいたいまいしょうか、そこを含めて今、新年度に向けて事業化できるもの、あるいはまた次年度でなくて、それ以降に事業化するものもその中にも含まれてまいりますので、そういった事業の仕分けをする中で、現在、特に新年度で実施すべきものについて検討を進めている段階であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

この春、総文で買い物弱者対策について質問したときには、高齢者ニーズ調査を今年度行って、その後、総合的に対策を考えるという答弁でした。そのときに高齢者にとって、一日一日が困り事の連続なので、やれることから随時やりながら改善していくべきだというような意見も出したところですが、要望もしたところですけど、困り事全般に関して、今、新年度実施という話がありましたが、もう既に取り組んでいることもあると思うので、どのような取り組み状況、取り組み方針になっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

伊藤議員から所管の常任委員会でもご意見をいただいております。その点につきましては、十分承知をしております。

大きく今回の調査で柱となる部分については、買い物と、ごみ出しと、雪対策といいますが、除雪という面であります。もちろん、これだけではありませんけれども、上位3つということになれば、そういうことあります。

それで、その特に買い物支援、特に中山間地におけるというところが多いわけありますけれども、

これについては次年度ということではなくて、今年度からという部分もありまして、実はこれについては民間が、既に先行して開始されておられる移動販売等もございます。それに加えて、商品の配達というようなことで、市内の各商店、いろいろな分野がありますけれども、今、80店舗ぐらいいなってますけれども、登録をいただいて、その情報を皆さんにお流しするというので、配達による調達が可能になるというような取り組みも今年度中に、年内というような取り組みに向けて担当課を中心に、今、事業を滑り出しております。

特に、民間の部分につきましては、車両台数も1台から3台に増強して、地区要望にも応えていただいているというのが現状であります。これらはすぐに着手して、ご要望に応えられる内容であろうというふうに思っております。そんな状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

これなんか先ほどちょっと言った、民間が取り組んでいることを行政で取りまとめる。だけど今度は困っている人が情報をうまく入手して、その民間の取り組みを活用していくというふうになっていかなきゃいけない。それは今後予定として、今年度、もう既にということですから、どうなってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

今度、利用する側からの希望、意見という部分については、行政懇談会の場とか、あるいはまた地区訪問懇談会の場で、例えば現行行われている移動販売についての受けとめ方等も、全ての地区でありませぬけれども、地区訪問で出かけるところとかについてはお聞きをして、現在の取り組みをさらに進めたいという結論になって、進めてきてるものであります。

やはり高い評価を、私の言い方はあれかもしれませんが、住民側からすると、大変ありがたいという多くの声がいただけていると。できれば品数がもう少しふえればとか、そういうようなご希望があるのも事実でありますけれども、いずれにしても、自分から出向かなくても一定の場所へ来ていただいて、近場で買い物ができるということに対しては、住民側からも大変喜んでいただいているということは事実でありますので、これらをまた踏まえながら、今後の事業継続をしていきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

そうしますと今の民間の取り組みというのは、近々、周知されるようなことになっているんですか、今、実際に困っている人たちに対してですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

買い物弱者の部分につきましては、今、いろいろと企画財政課長のほうが答弁させてもらったところでありまして、当商工農林水産課のほうといたしましては、商工会議所、商工会の会員の皆様で、もう既に移動販売車を持って移動販売してる方、あるいは配達をしてくださっているお店等がございました。ですけれども、会員の皆様にいま一度、昔ながらの御用聞きという商売を見直してみませんかというふうな声かけで、まごころ配達サービスという事業を周知をさせていただきました。

今、ここに一覧表があるんですけども、これを今月の25日の「おしらせばん」をもちまして、市内の全世帯に配布をしたいというふうに考えております。配達料ですとか出張費用等は、それぞれのお店のお考えでありますけれども、とりあえず今、買い物に困っている皆様のところへ、どういうお店が配達、また、移動販売するよということ、まず知らせたいということで、この一覧表を今月中にお配りしたいという予定であります。

なお今後、やはり御用聞きということになりますと、移動することでの経費等も多少かかってくるわけありますので、そういう部分は動いてみていただいて、またお店の実情、また、市民の皆さんからの実情を聞く中で、見直すところは改善をしていきたいというふうなことで、まずは年内に走りたいということで、今動いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

高齢者対策も、やっぱりチーム系魚川だと思うんですね。チーム系魚川市といいますかね、庁内のチームでやっていかなきゃいけない。行政の場合の取り組みだと、多くは最初から十分な計画をつくらうとする、そして時間をかける。そしてでき上がったものが、例えば不十分なもの、当初はよくても、時代の流れとともに不十分なものになっても、なかなかバイブル視して、計画を変えようとしません。

ところが、例えば市が今度は発注者として、例えば工事を発注する。内容が変わってくると、当初、出させた施工計画書はどんどん変更を求めて、実情に合ったものに変えさせていくわけですよ、そういうことはできるわけですね。自分たちの構想とか計画というのは、10年たっても変えないというのは結構ある。新幹線駅周辺構想なんか、何回も言いましたけど、整備構想ですか、これだって平成13年に定められたものを、まだそのまま使っているというような状況で。これからは、そんなことではいけないと思うんですね。

チーム系魚川の発想で、柔軟に対応するために、高齢者の生活対策もやれるところからどんどんやっていくと。だから新年度から始めることについても、やはりそういう姿勢が必要だと思います。今、買い物弱者対策はあるものを集めながら、なおかつ働きかけて改善をして、今、枠組みをつくってスタートしようとしている。既にもう始まっているところもあるわけですけど、そういうような発想で、特に高齢者対応ですから、どんどん実情に合って変えていく必要があると思うんですが、

これはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、今、市民生活において、非常にお困りの方が出てきてるわけでございまして、中山間地、そして町場の中、同じ困っていても、ちょっと違う部分があって、なかなか統一的なものがとれなかったわけですが、まずはやってみて、その中で整理をしていけるんでないかなというような感覚で、スタートをさせていただいております。

ですから今ご指摘のように、どうしても行政は完全なものを目指す部分があります。目指すといいましても、全然未知の中へ行くわけでございますので、100%のものができてない中において、結果的には、同じことになるわけでありますので、早くやって問題、課題を明確なものを捉えながら、軌道修正していくのもいいのではないかという感覚でありますので、ご指摘のような形で、これからも進めていきたいと思っておりますし、また、これからも同じような課題、問題等もあろうかと思うわけでございますが、そのような対応でいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

今の買い物弱者対策の取り組みが、これちょっと先ほどの質問に戻して考えてみると、チーム系魚川の取り組みに、いいモデルケースになるんじゃないかと思うんですね。民間側の取り組みを市がコーディネートしながら活性化させて、仕組みをどんどん変えていながらコミュニケーションをとって、いい形にしていくというふうに考えていただければ、何かちょっと方向性が見えてくるかなという気がします。

高齢者ニーズ調査は、12項目を担当部署で分析というふうになってはいますが、大まかにどんな担当割りとなっていて、細かくはいいですよ、それで、それを取りまとめて政策決定していく過程というのは、どのように進められていくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

先ほど申し上げましたように、大きくは今、3点がクローズアップされているというふうに受けとめておりまして、これらへの対応ということで、1点目の買い物につきましては、今、説明したとおりでありますけれども、2点目のごみ出し支援、あるいはまた雪の対策等の問題であります。

これらの実は共通している点でありますけれども、いろいろ介護保険等も含めた現行制度が、うまく理解いただけていない部分があるのではないかと。そういう部分も、もっとわかりやすくお知らせをしていくということと、あわせてほかの制度も、今、幾つか提案が挙がっております。それら

を関係課で、企画財政課も当然入っているわけでありまして、関係課の施策の中で具体化したものを、新年度予算に反映していきたいというふうに考えておまして、プロセスとすれば、もう少し庁内協議で分析結果を踏まえた施策立案の検討を踏まえて、予算化という段階にいきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

私も項目を見て挙げてみると、それぞれほとんどの課が関係してくるんですね、調査項目の中ですよ。その中で、どの施策をするかというのが今、課長が言われた話だと思いますけど、先ほどの買い物弱者のことで、ちょっともう1回聞きますが、協力できるのが、今、80社以上になっている、100社近いとして、サービスの内容と、それから3地域のバランスというのは、どんな感じになってますかね。ある程度、網羅できるような形になっているのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

一覧表に掲載させていただきました店舗は、約100店舗になります。地域のバランスと申しますと、やはり糸魚川地域が商店は非常に多いところでありましてけれども、糸魚川地域の商店であっても、能生地域や青海地域に配達できるというふうな事情をもって対応していただける商店もございますので、能生、青海地域でカバーできないところは、糸魚川の商店の皆さんにもカバーしていただける部分があるんじゃないかなというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

それで高齢者ニーズ調査の結果について、民生委員さんたちとの情報の共有と連携というのは、今の段階でどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

民生委員さんとの協議につきましては、これからでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

これからだけではわからないので、これからどういう予定になっているか。要するに施策を決定していく段階で、やはり民生委員さんの意見も聞くべきだと思うんですね。そこでの情報というのも重要になってきますから、その辺どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

地域ごとにいろんなニーズがありますので、その部分をまとめまして、民生委員さんの協議会の中でお話をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

本来であれば調査の段階で、高齢者の方に直接聞き取り調査をしたということですが、非常に丁寧な対応をされたと思うんですけど、やはりあわせて民生委員さんからの情報を踏まえて、本来であればその前に踏まえておいて、聞き取り調査の中に生かしていけたら、何かよかったのかなと思うんですけど、そういう段階というのは踏まれたんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

アンケートをする前に、民生委員さんにもアンケートの内容について周知させていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

それだとアンケートの内容を決めて、それを周知したということで、要するにアンケートの前に民生委員さんの意見も聞きながら、こういう地域ではこうだから、この辺はよく聞いてやってくださいというようなことが、やはり生かされていくべきであったのかなと思うんですね。それがされていないんだとすれば、これから内容分析の段階で、それがやはり生きていかなきゃいけない。アンケートの内容だけじゃなくてプラスアルファで、こうやって出てきてないけど、こういうことがあるんだよという話が出るかもしれない、直接聞き取りしてると緊張してしゃべれない。ところが、

民生委員がいろんな話をしてるなんていうこともあるわけですから、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のとおりだと思っているんですが、まずは今の新たな施策、制度をやらないでも、今、対応できる部分があるんでないかということでスタートさせていただきました。

アンケートの中にも、やはり民生委員のお考えも入れさせていただいてアンケートさせていただき、そしてこれから今、できる範囲のことをやりながら、そしてもしかしたら施策の中で、もっといい方向に行く可能性もできるんでないかというところで、生かさせていただければと思うわけがあります。

ですから今、急遽やったのは、いろんなところで皆さんがしっかりやってるけれども、行政もちょっとわからないところがあったり、本当に過疎の最前線、高齢化の最前線で、商店と住民の皆様方がやっておられるようなことを、我々が知らなかった部分がございます。そういったものをお聞かせいただきながら、全市の一連の情報を集めて今回スタートさせていただいて、また、その中で、さらに新たな展開の中においては、糸魚川であっても青海、能生にも対応できますよというような商店の皆さん方のお力もいただいたわけがございますし、そのほか、さらにそれで足りないものは何なのか。また、それを強めればどれがいいのかというような形の中で、またいろんなお考えを入れていただいて、施策にもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

市内のいろんな立場で動いてられる方を、上手に連携をとっていくということは重要だと思うんですね。

例えば郵便局、これは民営化されて郵便局の体制が変わってしまったので、やはり今、臨時職員の方が多そうですね。そういう中で何ができるのかということがあるんですけど、必ず毎日、場所によっては午前・午後、2回回るというようなことの中で、郵便局の方々と、どういう連携がとれるのか。全国的にいうと、ある地域の郵便局では見守りサービスをしている。それは例えば遠く離れた家族から、月々例えば1,500円というような費用の中で見守りサービスをして、報告を上げているというようなこともあります。

そういうふうに今の体制の中で、できること、できないことがあるのかもしれませんが、そういうところと連携を図っていくという。郵便局だけとは限らないんですけどね、そういうことも視野に入れて、やはり高齢者対策を考えていくということは重要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々のこの糸魚川市は非常に広範囲であるし、山間部、また中山間地があるわけでごさいますので、どうしても回るところがあるわけでごさいますので、そうやって巡回して、いろんな事業といいましょうか、仕事を展開している人たちがいるので、そういった人たちにも、また今、我々の非常に課題となっている点についても、支援をいただけるような連携も必要だろうと思うわけでありまして、郵政民営化というのが、その辺の部分を含めて今まで受け持っていたいたんですが、民営になったら、なかなかできない部分、変わった部分もあるわけでごさいますので、しかし、事業展開という形の中の、また1つの新しい結び目というのができるのかもしれないし、また、ほかの組織も事業体も、そういう市内を回る部分があるわけでごさいますので、そういったところにも何ができるのか、そういったところもやはり探していかなきゃいけないんだらうと思っております。

1本では、なかなかできないかもしれないけれども、合わせ技の中では、また経営的にも進められる部分もあるらうかと思うわけでごさいます。そういったところの情報交換というの、必要だというふうにも感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

すみません。1点お話させていただきたいと思っておりますけれども、今のほうでは、高齢者等の見守り支援ネットワークということをやっております、例えば金融機関でありますとか牛乳屋さん、新聞屋さん。今現在では24社のほうと協定書を結ばせていただいております。

郵便局に関しましては、協定書ということなかなか難しいけれども、見守りはさせていただきますよというお話をいただいております。

そんな中で、地域の高齢者の方の異変に気づいていただけるような取り組みも、させていただいております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

さっき挙げた郵便局の例は、これはやっぱり仕事として地元にはない家族と契約をしてやっていくということですから、そういう取り組みもある。それからボランティア的に、地域と密着してやっていくという取り組みもあるんだと思いますね。

ぜひ郵便局とも一度、そういうほかでやってるという例があるそうだけど、ここではどうなのかということも協議してもらいたいと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

民営化された郵便局の取り組みについては、これまでも一般質問の中で、ほかの議員の方からもご質問いただいております。

情報はお互いにやりとりしておりますけれども、まだそれ以来、新しい情報としてありませんけれども、ことしから試験的に、今、伊藤議員の言われるような見守りネットワークサービス、有料の部分でありますけども、そういうサービス。あるいは、また宅配等も含めて始まっております。

信越郵政局の管内では、再来年になると思いますけれども、実施されることも情報としては聞いております。ただ、具体的な内容については、まだお示しできないということでありまして、民営化の前に公営だったときに、行政側とそういった協定を結んで見守り等も行っていただいた経過もあります。場合によれば、今度はそういうこともできるかもしれないということも、情報としてはお聞きしておりますので、郵便局との連携というのは、非常にそういった意味では大切だなと思っておりますので、今後、情報収集と情報交換に努めてまいります。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

高齢者の離れた家族の心配事というのはあると思うんですよ。次の段階としては、そういうところへの抜き取りでもいいですから調査をしてもらって、それに対応するサービスがあるのかなのかということまで、また進めていただければと思います。

ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後3時26分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+